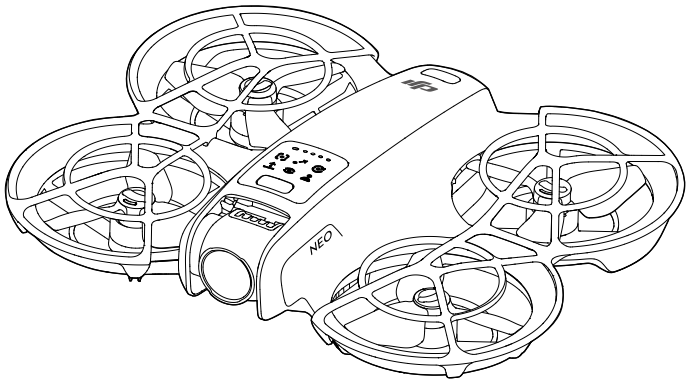
DJI NEO

ユーザーマニュアル

v1.2 2024.11



本書は、DJI の著作物であり、すべての権利は DJI に帰属します。DJI から別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用、または他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容を DJI 製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。

言語版によって相違がある場合には、英語版が優先されます。

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

任意のトピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書を印刷する

本書は高解像度印刷に対応しています。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

本マニュアルの使用方法

凡例

⚠重要　　ヒントとコツ　　参考

初めてのフライト前にお読みいただくもの

DJI™は、チュートリアルビデオと次のドキュメントをご用意しています。

1. 『安全ガイドライン』
2. 『クイックスタートガイド 』
3. 『ユーザーマニュアル』

すべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、『安全に関するガイドライン』 をお読みください。初めての飛行に際しては『クイックスタートガイド』をよく読み、詳細に関しては『ユーザーマニュアル』を参照してください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか、QR コードをスキャンすると、製品の安全な使用方法を実演するチュートリアルビデオを視聴できます。

https://www.dji.com/neo/video

DJI Fly アプリのダウンロード

本製品には必ず DJI Fly を使用してください。QR コードをスキャンして、最新版をダウンロードしてください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

⚠
- DJI Fly がサポートする Android および iOS のオペレーティングシステムのバージョンを確認するには、次を参照してください：https://www.dji.com/downloads/djiapp/dji-fly
- DJI Fly のインターフェースおよび機能は、ソフトウェアのバージョンが更新されると変わる場合があります。実際の使用感は、使用するソフトウェアのバージョンによって異なります。

[1] より安全にご使用いただくために、飛行中にこのアプリに接続、ログインしていない場合は、飛行高度が 30 m、飛行範囲が 50 m に制限されます。

[2] 手のひら制御およびモバイルアプリ制御の場合、DJI Neo がアプリに接続されていない期間、またはアプリを入れたスマートフォンがインターネットに接続されていない期間が 90 日を超えている場合、離陸は無効となります。離陸を有効にするには、スマートフォンがインターネットに接続されているときに DJI Neo をアプリに再接続します。

DJI Assistant 2 のダウンロード

DJI Assistant™ 2（一般向けドローン用）のダウンロード先：

https://www.dji.com/downloads/softwares/dji-assistant-2-consumer-drones-series

⚠
- この製品の動作環境温度は、-10°C～40°Cで、より大きな環境変動に耐えることのできるミリタリーグレードの分野での標準動作環境温度（-55°C～125°C）の条件を満たしていません。製品を適切に操作し、この製品の動作環境温度範囲の要件を満たしている分野に対してのみ実行してください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

目次

本マニュアルの使用方法 3
- 凡例 3
- 初めてのフライト前にお読みいただくもの 3
- チュートリアルビデオ 3
- DJI Fly アプリのダウンロード 3
- DJI Assistant 2 のダウンロード 4

1 製品の特徴 10
- 1.1 はじめに 10
- 1.2 初めてのご使用にあたって 10
  - DJI Neo の準備 10
  - 送信機の準備 11
  - DJI Goggles N3 の準備 12
    - ゴーグルの電源を入れる 12
    - ゴーグルの装着 13
  - DJI RC Motion 3 の準備 14
  - アクティベーション 15
  - ファームウェア更新 16
- 1.3 概要 16
  - DJI Neo 16
  - DJI RC-N3 送信機 17
  - DJI Goggles N3 18
  - DJI RC Motion 3 19

2 飛行の安全性 21
- 2.1 飛行制限 21
  - GEO（Geospatial Environment Online）システム 21
  - 飛行制限 21
    - 飛行高度と距離制限 21
    - GEO 区域 23
  - GEO 区域のロック解除 23
- 2.2 飛行環境の条件 23
- 2.3 責任ある機体操作 24
- 2.4 フライト前チェックリスト 25

3 飛行操作 28
- 3.1 手のひら制御 28
  - 注記 28
  - 切り替えモード 29

© 2024 DJI All Rights Reserved.

手のひら離着陸とスマートスナップ 32
3.2 モバイルアプリでのコントロール 34
注記 34
DJI Neo の接続 35
スマートスナップ 35
アルバムを表示 38
手動制御 39
アプリでの音声録音 40
音声操作 40
3.3 RC 制御 41
自動離陸 41
自動着陸 41
モーターの起動／停止 41
モーターの始動 41
モーターの停止 41
飛行中のモーター停止 42
機体の制御 42
離陸／着陸手順 44
インテリジェント フライトモード 45
フォーカストラック 45
クイックショット 48
クルーズ制御 49
アプリでの音声録音 50
3.4 没入型モーションコントロール 51
飛行の基本 51
離陸、制動、着陸 53
前方と後方への飛行 53
機体の向きの調整 54
機体を斜めに傾けて上昇または下降させる 55
ジンバルとカメラの操作 56
ヘッドトラッキング 56
簡単 ACRO 57
スライド 58
180°ドリフト 59
フリップ 59
3.5 録画に関する提案とヒント 60

4 DJI Neo 62

4.1 フライトモード 62
4.2 ステータス インジケーター 63
4.3 Return-to-Home (RTH) 64

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

注記 65
発動方法 66
RTH 手順 67
4.4 自動着陸 67
発動方法 67
着陸保護 67
4.5 ビジョンシステムおよび赤外線検知システム 68
4.6 プロペラとプロペラガード 70
取り外し、取り付け 71
注記 74
4.7 インテリジェント フライトバッテリー 75
注記 75
バッテリーの挿入および取り外し 76
バッテリーの使用 77
バッテリーの充電 78
充電器の使用 79
充電ハブの使用 79
バッテリー保護メカニズム 82
4.8 ジンバルとカメラ 82
カメラに関する注記 82
ジンバルに関する注記 83
ジンバル角 83
ジンバル操作モード 83
4.9 写真と動画の保存とエクスポート 84
収納 84
エクスポート 84
4.10 クイック転送 84

5 DJI RC-N3 87
5.1 操作 87
電源のオン／オフ 87
バッテリーの充電 87
ジンバル＆カメラの操作 88
フライトモードスイッチ 88
飛行一時停止／RTH ボタン 88
カスタムボタン 88
5.2 バッテリー残量 LED 89
5.3 送信機のアラート 89
5.4 最適な伝送範囲 89
5.5 送信機のリンク 90

6 付録 92

© 2024 DJI All Rights Reserved.

6.1 仕様 92
6.2 互換性 92
6.3 ファームウェア更新 92
6.4 フライトレコーダー 93
6.5 アフターサービス情報 93

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

製品の特徴

© 2024 DJI All Rights Reserved.

1 製品の特徴

1.1 はじめに

標準プロペラガードを装備した DJI NEO™ は、軽量で持ち運びが可能です。屋内外を問わず、安定したホバリングと、スムーズな曲技飛行を実現します。手のひら離着陸と、複数の制御方法に対応しています。

手のひら制御およびモバイルアプリ制御では、DJI Neo のモードボタンを押すか、またはアプリを使用して、複数のインテリジェント撮影モードを実行できます。

DJI Neo は、FPV カメラ付きドローンです。互換性のあるゴーグルや送信機と併用することで、臨場感あふれるフライトを体験できます。

- 付属デバイスは、ご購入いただいた製品コンボによって異なります。本マニュアルでは、複数のデバイスについて、使用方法を説明しています。ご購入製品に関連する内容をお読みください。
- DJI 公式サイトで、DJI Neo に対応するゴーグルと送信機をご確認ください。使用方法については、それぞれのユーザーマニュアルを参照してください。

- ゴーグルを使用すると、目視内 (VLOS) での飛行という要件は満たされません。いくつかの国と地域では、補助者を設け、空域や周辺に危険がないか監視してもらう必要があります。ゴーグルの使用時は現地の法律・規制に必ず従ってください。（日本国内において屋外でゴーグルを使用しての飛行は目視外飛行になり、航空局からの飛行の許可・承認を取得する必要があります。）

1.2 初めてのご使用にあたって

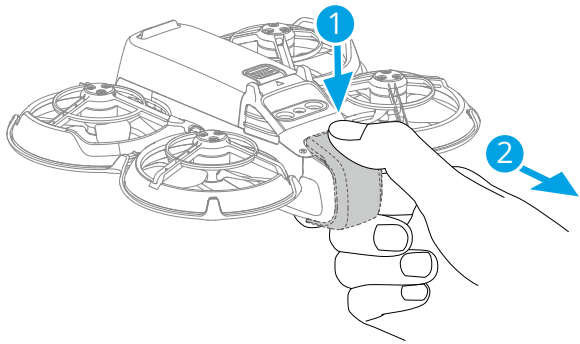
初めて使用する前に、以下のリンクをクリックし、または QR コードをスキャンしてチュートリアル動画をご覧ください。

https://www.dji.com/neo/video

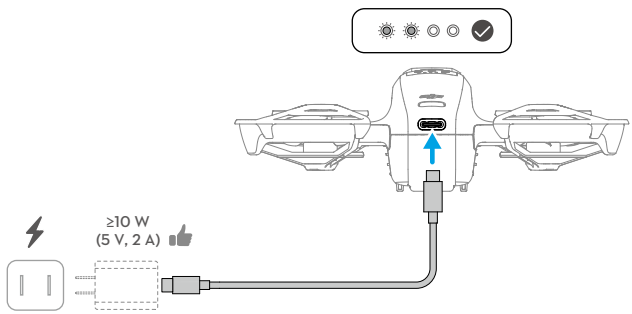
DJI Neo の準備

1. 下に押して、ジンバル プロテクターを取り外します。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.



2. すべてのインテリジェント フライトバッテリーは、安全のためにハイバネーション モードで出荷されています。バッテリーを有効にするには、USB 充電器を DJI Neo の USB-C ポートに接続して充電します。バッテリーは充電を開始すると有効になります。



- DJI Neo を使用しないときは、ジンバルを保護するためにジンバル プロテクターを取り付けておくことをお勧めします。

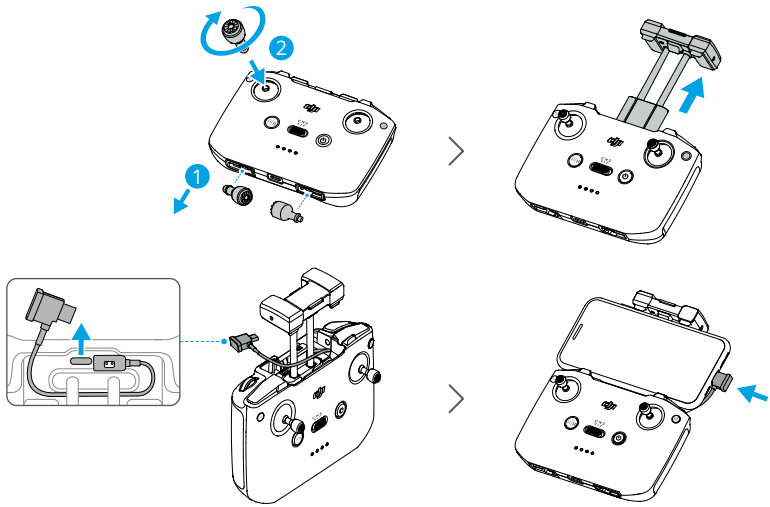
- DJI Neo の USB-C ポートの最大充電出力は 15 W です。
- DJI Neo の電源をオンにする前に、必ずジンバル プロテクターを取り外してください。この手順に従わないと、自己診断テストの際にシステムに影響が出る可能性があります。

送信機の準備

1. 操作スティックを収納スロットから取り外し、送信機に取り付けます。
2. モバイル端末ホルダーを引き出します。ご使用のモバイル端末のポートの種類に基づき、適切な送信機ケーブル（USB-C コネクター付きケーブルがデフォルトで接続されています）を選択します。ご使用のモバイル端末をホルダーに装着し、送信機ロゴのない方のケ

© 2024 DJI All Rights Reserved.

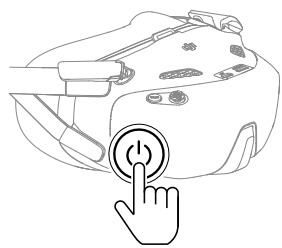
ーブルの端をモバイル端末に接続します。モバイル端末がしっかりと固定されていることを確認してください。



⚠
- Android モバイル端末の使用時に USB 接続プロンプトが表示された場合は、「充電のみ」を選択してください。それ以外を選択すると、接続が失敗する場合があります。
- モバイル端末ホルダーを調整して、モバイル端末がしっかりと固定されるようにします。

DJI Goggles N3 の準備

ゴーグルの電源を入れる



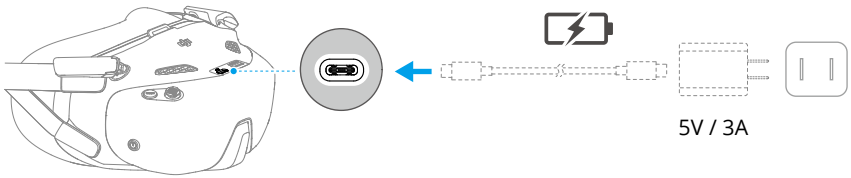
電源ボタンを 1 回押すと、現在のバッテリー残量を確認します。

ボタンを 1 回押し、次に 2 秒間長押しすると、ゴーグルの電源がオンまたはオフになります。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

点滅パターン	バッテリー残量
緑色に点灯	40～100%
黄色に点灯	11～39%
赤色に点灯	1～10%

バッテリー残量が少ない場合は、USB 充電器を使用して充電することをお勧めします。



下の表は、充電中のバッテリー残量を示しています：

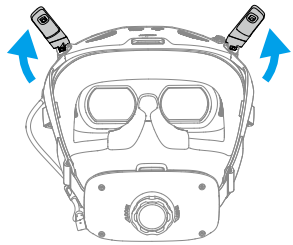
点滅パターン	バッテリー残量
黄色に点滅	1～39%
緑色に点滅	40～99%
緑色に点灯	100%

ゴーグルの装着

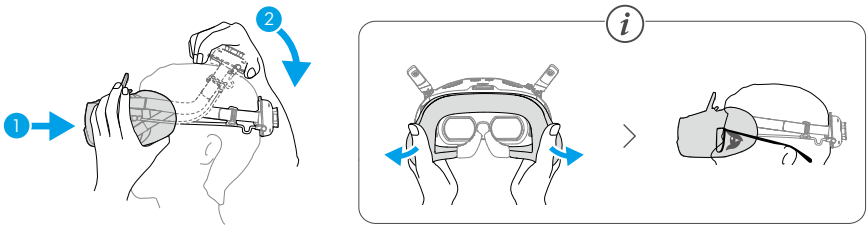
⚠
- ゴーグルを使用していない時は、損傷を防ぐために、アンテナを折りたたんでください。
- フォームパッド、バッテリー収納部の柔らかい面、その他のコンポーネントを、鋭利な物で引き裂いたり引っかいたりしないでください。
- 電源ケーブルは取り外しできません。電源ケーブルが破損しないように、電源ケーブルを無理に引っ張らないでください。

1. アンテナを展開します。

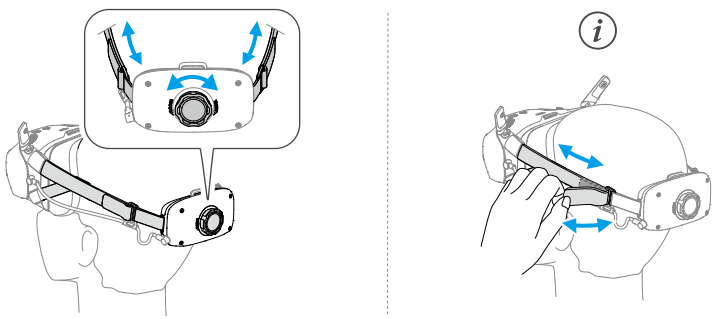
© 2024 DJI All Rights Reserved.



2. デバイスの電源を入れたら、ゴーグルを装着します。



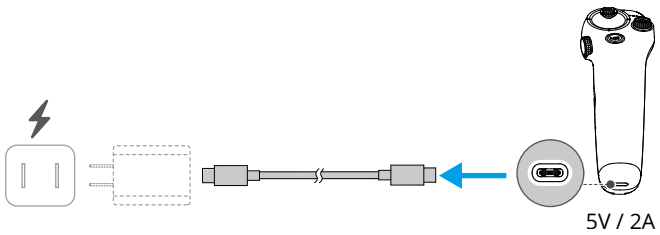
3. バッテリー収納部のヘッドバンド調整ノブを回して、ヘッドバンドの長さを調整します。



DJI RC Motion 3 の準備

電源ボタンを 1 回押すと、現在のバッテリー残量を確認します。バッテリー残量が低下している場合、使用前に充電してください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.



アクティベーション

初めて使用する前に、DJI Fly アプリを使用して製品をアクティベートする必要があります。アクティベーションにはインターネット接続が必要です。アクティベーションの方法は、ご購入いただいた製品コンボによって異なります。対応する指示に従って、製品をアクティベートしてください。

DJI Neo

電源ボタンを 1 回押した後、長押しすると、DJI Neo の電源が入ります。DJI Fly のホーム画面の右下にある**接続ガイド**をタップし、デバイスのモデルを選択し、画面の指示に従って接続とアクティベーションを完了します。

Fly More コンボ

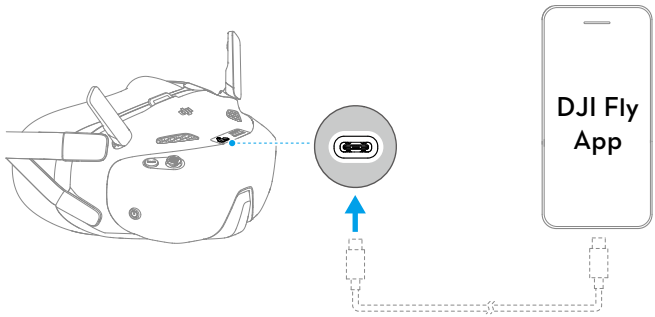
電源ボタンを 1 回押した後、長押しして、機体と送信機の電源をそれぞれ入れます。スマートフォンが送信機に接続されていることを確認し、画面の指示に従って、DJI Fly を使って機体を起動させます。

また、前セクションに記載する DJI Neo のアクティベート方法に従って、機体をアプリに接続し、機体をアクティベートすることもできます。完了すると、送信機で機体を使用できるようになります。

Motion Fly More コンボ

電源ボタンを 1 回押して、再度 2 秒間長押しすると、機体、ゴーグル、モーションコントローラーの電源をオンにできます。適切なデータケーブルを使って、ゴーグルをモバイルデバイスに接続します。モバイル端末で DJI Fly を起動し、画面の指示に従って DJI デバイスのアクティベーションを行います。モバイルデバイスを接続できない場合は、ゴーグルに表示されるプロンプトに従ってください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

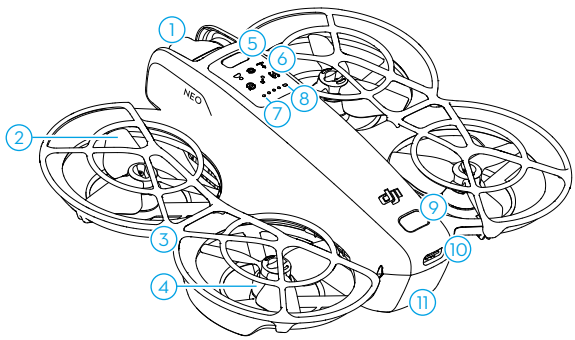


ファームウェア更新

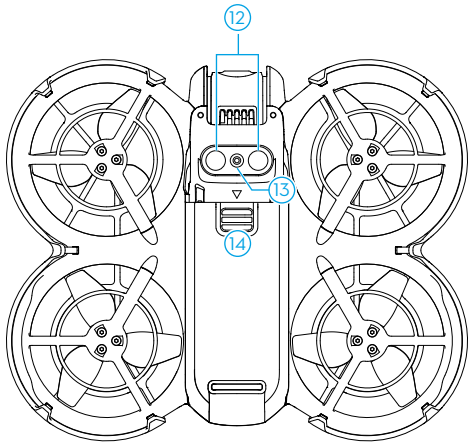
ファームウェア更新が利用できる場合、DJI Fly にプロンプトが表示されます。最適なユーザーエクスペリエンスを得るために、プロンプトが表示されたら、ファームウェアを更新してください。

1.3 概要

DJI Neo

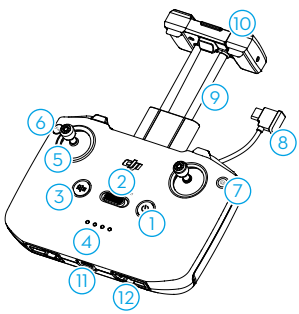


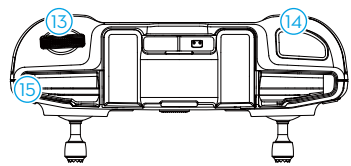
 © 2024 DJI All Rights Reserved.



1. ジンバルとカメラ
2. プロペラ
3. プロペラガード
4. モーター
5. モードボタン
6. モード インジケーター
7. バッテリー残量 LED
8. ステータス インジケーター
9. 電源ボタン
10. USB-C ポート
11. インテリジェント フライトバッテリー
12. 赤外線検知システム
13. 下方ビジョンシステム
14. バッテリー ラッチ

DJI RC-N3 送信機



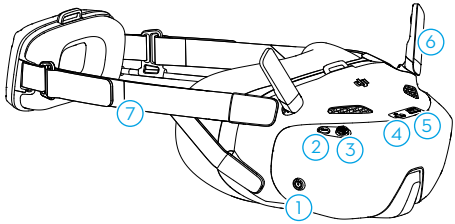


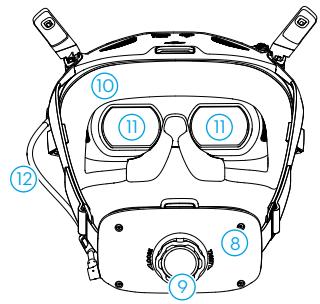
1. 電源ボタン
2. フライトモードスイッチ
3. 飛行一時停止／RTH（Return-to-Home）ボタン
4. バッテリー残量 LED

© 2024 DJI All Rights Reserved.

5. 操作スティック
6. カスタムボタン
7. 静止画／動画ボタン
8. 送信機ケーブル
9. モバイル端末ホルダー
10. アンテナ
11. USB-C ポート
12. 操作スティック収納スロット
13. ジンバルダイヤル
14. シャッター／録画ボタン
15. モバイル端末スロット

DJI Goggles N3



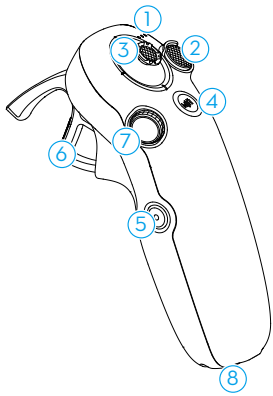


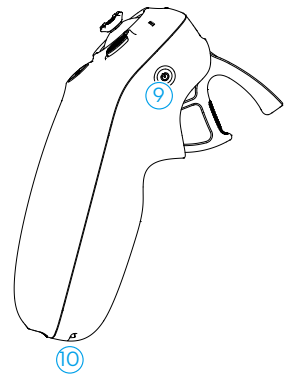
1. 電源ボタン
2. 戻るボタン
3. 5D ボタン
4. USB-C ポート
5. microSD カードスロットロット
6. アンテナ
7. ヘッドバンド
8. バッテリー収納部
9. ヘッドバンド調整ノブ
10. フォームパッド
11. レンズ
12. 電源ケーブル

- ゴーグルをスマートフォンまたはパソコンに接続したとき、接続後にデバイスが応答しない場合は、ゴーグルのメニューに移動して**設定 > 詳細**を選択し、OTG 有線接続モードに入ります。接続してもデバイスがまだ反応しない場合、別のデータケーブルを使用してみてください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

DJI RC Motion 3





1. バッテリー残量 LED
2. ロックボタン
3. ジョイスティック
4. モードボタン
5. シャッター／録画ボタン
6. アクセル
7. ダイヤル
8. USB-C ポート
9. 電源ボタン
10. ストラップ取付口

© 2024 DJI All Rights Reserved.

飛行の安全性

© 2024 DJI All Rights Reserved.

2　飛行の安全性

飛行前の準備が完了したら、飛行技術を磨き、安全飛行の練習を行っておくことをお勧めします。以下の飛行要件と制限に従って、飛行に適したエリアを選択してください。飛行中は、現地の法律および規制を順守してください。本製品を安全に使用するために、飛行前に『安全ガイドライン』をお読みください。

2.1　飛行制限

GEO（Geospatial Environment Online）システム

DJI GEO（Geospatial Environment Online）システムは、飛行の安全性と制限の更新に関する情報をリアルタイムで提供する、制限空域での UAV の飛行を防ぐグローバル情報システムです。例外的な状況では、制限エリアのロック解除を行い、飛行を許可することができます。飛行の前に、目的の飛行地域の現在の制限レベルに基づいてロック解除の要請を提出する必要があります。GEO システムは、現地の法律や規制に完全に準拠していない場合があります。ご自身の飛行の安全性に責任を負い、制限エリアでのロック解除を要求する前に、関連する法的および規制要件について地方自治体に相談する必要があります。GEO システムについての詳細は、次のサイト https://fly-safe.dji.com をご覧ください。

飛行制限

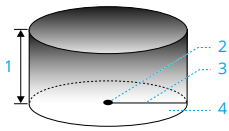
安全上の理由から、初期状態では飛行制限が有効になっており、機体を安全に使用できるようになっています。飛行制限の高度と距離を設定できます。全地球測位衛星システム (GNSS) が使用可能な場合は、高度制限、距離制限、GEO 区域の機能が同時に働き、飛行安全性を管理します。GNSS が利用できない場合、高度のみ制限できます。

飛行高度と距離制限

最大高度は機体の飛行高度を制限し、最大距離は機体のホームポイント周辺の飛行半径を制限します。飛行安全性向上のために、DJI Fly アプリでこれらの制限を変更できます。

- RC 制御および没入型モーションコントロールを使用する場合、機体は離陸地点から最大で 120 m の高度まで上昇することができます。DJI Fly アプリで制限できる最大高度も、120 m が上限となります。
- 手のひら制御およびモバイルアプリ制御を使用する場合、最大飛行高度は 30 m、最大飛行距離は 50 m です。これらの制限は、DJI Fly アプリでは変更できません。次の情報は、送信機を使用して機体を使用する場合に適しています。

© 2024 DJI All Rights Reserved.



1. 最大高度
2. ホームポイント（水平位置）
3. 最大距離
4. 離陸時の機体の高度

強い *GNSS* 信号

	飛行制限	DJI Fly アプリでのプロンプト
最大高度	機体の高度は、DJI Fly で設定された値を超えることはできません。	最大飛行高度に到達
最大距離	機体からホームポイントまでの直線距離は、DJI Fly で設定された最大飛行距離を超えることはできません。	最大飛行距離に到達しました。

弱い *GNSS* 信号

	飛行制限	DJI Fly アプリでのプロンプト
最大高度	• 十分に明るい場合、高度は離陸地点から 30 m の高さに制限されます。 • 明るさが不十分で赤外線検知システムが機能している場合、高度は地表 2 m の高度に制限されます。 • 明るさが不十分で赤外線検知システムが機能していない場合、高度は離陸地点から 30 m の高さに制限されます。	最大飛行高度に到達
最大距離	制限なし	

⚠
- 機体の電源を入れるたびに、GNSS 信号が強くなっている限り（GNSS 信号強度 ≥ 2）、2 m または 30 m の高度制限は自動的に解除され、その後 GNSS 信号が弱くなっても制限は有効になりません。
- 機体が慣性によって設定された飛行範囲を超えて飛行した場合、機体を操縦することはできますが、それ以上遠くに飛ばすことはできません。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

GEO 区域

DJI GEO システムは、安全な飛行場所を指定し、個々の飛行のリスクレベルと安全に関する注意、および制限空域情報を提供します。すべての飛行制限エリアは GEO 区域と呼ばれ、さらに制限区域、承認区域、警告区域、強化警告区域、高度制限区域に分けられます。DJI Fly では、これらの情報をリアルタイムで表示できます。GEO 区域には、空港、大規模なイベントの会場、公衆衛生上の緊急事態（山火事など）が発生した地域、原子力発電所、刑務所、国有財産、軍事施設がありますが、これらに限定されません。デフォルトでは、GEO システムは、安全またはセキュリティ上の懸念につながる可能性のある区域への離陸または区域内での飛行を制限します。世界中の GEO 区域に関する包括的な情報を含む GEO 区域マップは、DJI 公式サイトにあります：https://fly-safe.dji.com/nfz/nfz-query。

GEO 区域のロック解除

さまざまなユーザーのニーズを満たすために、DJI ではセルフロック解除およびカスタムロック解除の 2 つのロック解除モードを用意しています。DJI Fly Safe のウェブサイトから申請できます。

セルフロック解除は承認区域でのロック解除を目的としています。セルフロック解除を完了するには、安全飛行に関する DJI Fly Safe のウェブサイト https://fly-safe.dji.com からロック解除申請を送信する必要があります。ロック解除申請が認証されると、DJI Fly アプリからライセンスロック解除を同期できます。該当区域のロックを解除するには、認証された承認区域内で機体を直接離陸または飛行して、DJI Fly のプロンプトに従って該当区域のロックを解除します。

カスタムロック解除は、特別な要件を持つユーザー向けに用意されています。ユーザーによって定義されたカスタム飛行エリアを指定し、さまざまなユーザーのニーズにあわせた個別の飛行許可書を提供します。このロック解除オプションは、すべての国と地域で利用でき、安全飛行に関する DJI Fly Safe ウェブサイト https://fly-safe.dji.com から申請できます。

⚠ • 飛行の安全を確保するため、機体はロック解除区域に入った後、その区域から外に出ることはできません。ホームポイントがロック解除区域外にある場合、機体はホームに帰還できません。

2.2 飛行環境の条件

1. 風速 8 m/s 超のとき、雪、雨、霧などの悪天候時には、DJI Neo の操作をしないでください。
2. 飛行は周囲が開けた場所でのみ行ってください。高層ビル、大きな金属構造物、山、森林地帯などは、信号を遮り、電磁波干渉や磁気干渉を引き起こし、測位精度の低下や測位エラーにつながる可能性があります。そのため、バルコニーや、建物から 15 m 以内の場所

© 2024 DJI All Rights Reserved.

からは離陸させないでください。飛行中は、建物から少なくとも 15 m 離れているようにしてください。送信機で機体を使用する場合、離陸後、「Home Point is updated」（ホームポイントが更新されました）と表示されたことを確認してから飛行を続行してください。機体が建物の近くで離陸した場合、ホームポイントの精度は保証されません。この場合、自動 RTH 中、機体の現在位置に細心の注意を払ってください。機体がホームポイントに接近したら、自動 RTH をキャンセルし、機体を手動でコントロールして、適切な場所に機体を着陸させることを推奨します。

3. 強い反射や動的な変化がなく、照度が良好で表面の構造がはっきりしている環境で、DJI Neo を飛行させてください。次の状況では、ビジョンシステムが適切に動作しない可能性があります：照度条件が悪い場合、構造が鮮明でない表面、強い反射のある表面（車の屋根、単色のセラミックタイル、ガラスなど）、動的な変化のあるシーン（水上、動く人、揺れる低木、草むらなど）。DJI Neo の飛行は、昼間に限定してください。
4. DJI Neo は、目視内 (VLOS) でのみ飛行させてください。目視外飛行 (BVLOS) は、デバイス性能、操縦者の知識と技能、運航の安全管理が、BVLOS に関する現地の規制に適合している場合に限り、実施することができます。障害物や人ごみの近くでの飛行は避けてください。空港、高速道路、鉄道の駅、鉄道の線路、市街地、その他の要注意エリアの近くでは、現地の規則による許可や承認がない限り、飛行させないでください。
5. レーダー基地、マイクロ波中継局、移動通信基地局、通信妨害装置などの強力な電磁波干渉サイトから 200 m 以上の距離を保つようにしてください。
6. 送電線、基地局、変電所、放送塔、Wi-Fi ホットスポット、ルーター、Bluetooth デバイスの近くなど、高レベルの電磁波を発する場所を避け、電磁干渉を最小限に抑えてください。該当エリアでは複数の DJI Neo を飛行させないでください。
7. 極地での測位では、DJI Neo はビジョンシステムのみを使用します。
8. 車や船などの動いている物体から離陸させないでください。
9. 崖の近くなど、地面の高さが大きく変化する場所では離陸させないでください。
10. 砂漠や砂浜から離陸する際は、DJI Neo に砂が入らないように気を付けてください。
11. 発火や爆発の危険性のある場所で、DJI Neo を操作しないでください。
12. 機体、送信機、バッテリー、バッテリー充電器、バッテリー充電ハブは、乾いた環境で運用してください。
13. 事故、火災、爆発、洪水、津波、雪崩、地滑り、地震、粉塵、砂嵐、塩水噴霧、菌類を伴う環境下では、機体、送信機、バッテリー、バッテリー充電器、バッテリー充電ハブを使用しないでください。
14. 鳥の群れ付近で機体を操作しないでください。

2.3 責任ある機体操作

深刻な怪我や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

1. 麻酔、飲酒、服薬などの影響がないこと、めまい、疲労、吐き気などの症状がなく、機体を安全に操作する能力があることを確認してください。
2. 着陸後、まず機体の電源を落としてから送信機の電源を切ります。
3. 建物、人体、動物に危険なペイロードを落下させたり、それらに向けて打ち上げ、発射したりしないでください。人的障害や物的損害が生じるおそれがあります。
4. 墜落した機体、または偶発的な損傷を受けた機体、または状態の悪い機体を使用しないでください。
5. 必ずトレーニングを十分に行い、緊急時または事故が発生した場合の緊急時対応計画を作成してください。
6. 必ず飛行計画を立ててください。機体を無謀に飛行させないでください。
7. カメラを使用するときは、他者のプライバシーを尊重してください。現地のプライバシー法規制と道徳的規準を必ず順守してください。
8. 一般的な個人使用以外の理由で本製品を使用しないでください。
9. 本製品を、スパイ行為、軍事運用、不正捜査など、違法または不適切な目的のために使用しないでください。
10. 本製品を中傷、虐待、嫌がらせ、ストーキング行為、脅迫、または他者のプライバシーの侵害や肖像権の侵害など法的権利を侵す行為に使用しないでください。
11. 他人の私有地に侵入しないでください。

2.4 フライト前チェックリスト

1. ジンバル プロテクターが取り外されていることを確認してください。
2. インテリジェント フライトバッテリーおよびプロペラが正しく取り付けられ、しっかりと固定されていることを確認してください。
3. すべてのデバイスが完全に充電されていることを確認してください
4. ジンバル＆カメラが正常に機能することを確認してください。
5. モーターの動きを妨げるものがなく、モーターが正常に機能することを確認してください。
6. すべてのカメラレンズとセンサーに汚れがないことを確認してください。
7. 手のひら制御を使用する際は、DJI Neo が Wi-Fi 経由でスマートフォンの DJI Fly に接続し、アプリが正しく動作していることを確認してください。

   送信機を使用する際は、送信機と DJI Fly が正常に機体と接続されていることを確認してください。
8. 最大飛行高度、最大飛行距離、RTH 高度が、現地の法令に従って、DJI Fly またはゴーグル（使用している場合）で適切に設定されていることを確認してください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

9. DJI の純正部品または DJI が認定する部品のみをご使用ください。認定されていない部品を使用すると、DJI Neo に不具合が発生し、本製品の安全性が損なわれるおそれがあります。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

飛行操作

© 2024 DJI All Rights Reserved.

3 飛行操作

DJI Neo はさまざまなシーンに対応するため、ニーズに合わせて複数の制御方法に対応しています。飛行の前に、各制御方法の注意事項や使用方法をよく確認してください。

⚠
- DJI Neo は障害物検知機能を搭載していません。慎重に飛行してください。
- 飛行中の DJI Neo には触れないでください。飛行中に接触すると、DJI Neo がドリフトして衝突が発生する可能性があります。
- 衝突したり、激しく衝撃を受けたり、激しく揺れたりした直後は、DJI Neo を飛行させないでください。DJI Neo は安定した飛行ができない可能性があります。

3.1 手のひら制御

手のひら制御では、手のひらでの離着陸がサポートされます。DJI Neo のモードボタンを使うことで、複数のスマートスナップが可能です。被写体を確認した後、DJI Neo は自動的に録画をしながら飛行します。* Wi-Fi 機能を使って DJI Fly アプリに接続し、各モードのパラメーターを調整します。詳細については、モバイルアプリでのコントロールのセクションを参照してください。例としてデフォルトの設定を使用しています。

* スマートスナップは人物の追跡のみをサポートしています。

注記

- 手のひら制御を使用する前に、機体に接続されている送信機とゴーグルの電源を切ってください。

⚠
- 飛行環境が飛行条件を満たしていること、および問題が発生したときや緊急時にはすぐに DJI Neo を制御して、回収できることを確認してください。DJI が事故の原因を分析できない場合、DJI は保証やその他のアフターサービスを提供できない可能性があります。
- 手のひら制御を使用する前に、DJI Neo が Wi-Fi 経由でスマートフォンの DJI Fly に接続されていることを確認してください。アプリを使用しないで手のひら制御を使用する場合において、飛行中に DJI Neo が故障した場合、事故を避けるため、Wi-Fi 経由で DJI Fly に接続し、手動で制御することを選択できます。
- Wi-Fi 信号が干渉を受けない、障害物がなく開けた環境で飛行するようにしてください。
- 手のひら制御を使用する場合、DJI Neo の最大飛行高度は 30 m、最大飛行距離は 50 m です。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

- 手のひら制御では RTH (Return to Home) はサポートされていません。管理区域内では目視内飛行 (VLOS) を維持してください。
- 水上では飛行させないでください。
- 以下の状況では、DJI Neo は自動に着陸します。着陸による DJI Neo の紛失や破損を防ぐため、使用環境を必ず守ってください。
  - バッテリー残量の著しい低下。
  - 測位に失敗し、DJI Neo が ATTI モードに入ったとき。
  - DJI Neo が衝突を検知したがクラッシュしなかったとき。
- 手のひらで離着陸するときは、以下のルールを守ってください：
  - 可能な限り無風の環境で DJI Neo を操作してください。
  - 指を伸ばして、そのまま静止します。けがや損傷を防ぐため、プロペラガードやプロペラの回転範囲内に指を入れないでください。
  - 移動しながら、離着陸を行わないでください。飛行中に接触すると、DJI Neo がドリフトして衝突が発生する可能性があります。着陸の際、手が動いていると、DJI Neo がモーターを止められないことがあります。
  - 離陸の際、DJI Neo を投げないでください。
  - DJI Neo を手でつかまないでください。
  - 手のひらの上に着地させるには、着地後に落ちないように DJI Neo の真下に手を置きます。
  - 十分な照度と、十分な構造のある表面を備えた環境で離陸させます。現在の場所と照度が大きく異なる環境へは飛行させないでください。
  - DJI Neo が手のひら離着陸に失敗した場合は、トラブルシューティングのため DJI Neo の音声プロンプトに従うか、DJI Fly アプリに接続して詳細を確認してください。音声プロンプトは、最新の接続におけるアプリの言語設定に従って、英語または中国語（北京語）をサポートします。その他の言語はサポートされていません。

切り替えモード

デバイスの初回電源投入後のデフォルトモードは、フォローです。モードボタンを 1 回押すと、ドローニー、サークル、ロケット、スポットライト、カスタムに切り替わります。

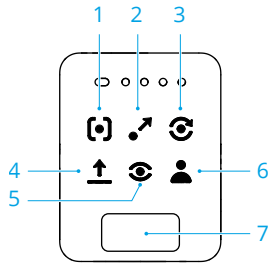
デフォルトのカスタムモードは、DirectionTrack です。* Wi-Fi 経由で DJI Neo をモバイルアプリに接続し、ヘリックスまたはブーメランを選択します。飛行前に、アプリで各モードのパラメーターを調整することもできます。

* ファームウェアを最新バージョンに更新してください。更新しないと、機能がサポートされていないことがあります。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

- DirectionTrack を初めて使用するときは、DJI Neo を DJI Fly アプリに接続し、チュートリアルに従ってこのモードのロックを解除します。

モードを切り替えると、機体は選択したモードを音声で案内し、DJI Neo の上部にある対応するモード インジケーターが点灯します。



1. **フォロー**

   DJI Neo は、被写体を後方から追いかけながら自動的に録画します。被写体が DJI Neo から離れると、被写体を追って前方に飛行します。被写体が DJI Neo に向かって移動すると、その場でホバリングし、後方には飛行しません。衝突を避けるため、慎重に行ってください。フォローモードでの最大水平飛行速度は 8 m/秒です。

   DJI Fly アプリでフォローの距離と高さを設定できます。

   - DJI Neo は障害物検知機能に対応していません。飛行の安全性を確保するため、目視内での飛行を推奨します。
   - 飛行環境が開けた場所で障害物がないこと、および周囲の明るさが十分であることを確認してください。

   - 急カーブを曲がったり、障害物に遮られたりして被写体がカメラの視野内に入っていない場合、DJI Neo は被写体を見失ってホバリングします。被写体の確認が成功するには、被写体がカメラの視野内に戻る必要があります。

2. **ドローニー**

   DJI Neo は、カメラを被写体の元の位置に向けたまま、後方に飛行しながら映像を録画し、次に前方に飛行しながら別の映像を録画します。録画後は、離陸地点でホバリングします。

   DJI Fly アプリで最大距離と高さを設定できます。

3. **サークル**

   DJI Neo はカメラを被写体に向けたまま、事前に設定された距離まで後進飛行し、その後、被写体の周囲を一周しながら自動的に録画を開始します。録画後は、離陸地点でホバリングします。

   DJI Fly アプリで距離を設定できます。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

4. ロケット

DJI Neo はカメラを被写体の元の位置に向けたまま、上昇しながら映像を録画し、次に下降しながら別の映像を録画します。録画後は、離陸地点でホバリングします。

DJI Fly アプリでは、最大高度を設定したり、上昇時および下降時における DJI Neo の回転を有効または無効にしたりすることができます。

5. スポットライト

DJI Neo は離陸後にホバリングし、被写体にカメラを向けて映像を録画します。

DJI Fly アプリでカメラモードを「写真」または「映像」に設定できます。「写真」に設定すると、被写体が 3 秒間一定のポーズを維持することで、DJI Neo を自動的にトリガーして写真を撮影することができます。

6. カスタム

DirectionTrack

DJI Neo は離陸後、一定距離を後方に飛行し、被写体の移動方向を判断して、追跡方向を確認します。確認すると、DJI Neo は録画中の被写体の動きの方向に対して、追跡方向から被写体を追いかけます。

DJI Fly アプリでフォローの距離と高さを設定できます。

DJI Neo は、被写体の動きまたは方向が DJI Neo に対して速く変化する場合、被写体の後方からの追従に切り替わることがあります。DJI Neo が被写体の方向を再確認すると、元の追跡方向に切り替わります。

DirectionTrack を終了するときは、DJI Neo の方を向いて、静止します。DJI Neo は被写体の方へ飛行して戻ります。

⚠
- DJI Neo は障害物検知機能に対応していません。飛行の安全性を確保するため、目視内での飛行を推奨します。
- 飛行環境が開けた場所で障害物がないこと、および周囲の明るさが十分であることを確認してください。

- 急カーブを曲がったり、障害物に遮られたりして被写体がカメラの視野内に入っていない場合、DJI Neo は被写体を見失ってホバリングします。被写体の確認が成功するには、被写体がカメラの視野内に戻る必要があります。

ヘリックス

DJI Neo はカメラを被写体に向けたまま、離陸地点から 2 m の位置まで後進飛行し、被写体の周りを螺旋状に 1 周しながら、かつ自動撮影をしながら、上昇します。録画後は、離陸地点でホバリングします。

DJI Fly アプリで最大距離を設定できます。

ブーメラン

© 2024 DJI All Rights Reserved.

DJI Neo はカメラを被写体に向けたまま、被写体の周囲を楕円形の軌道に沿って飛行しながら自動撮影します。楕円形の経路に沿って飛行しながら上昇し、その後下降し、離陸地点から最も遠い地点を飛行したときに最大高度に到達します。録画後、DJI Neo は離陸地点でホバリングします。

DJI Fly アプリで最大距離を設定できます。

7. **モードボタン**

   一回押すと、モードが切り替わります。長押しすると、手のひら離陸を実行します。

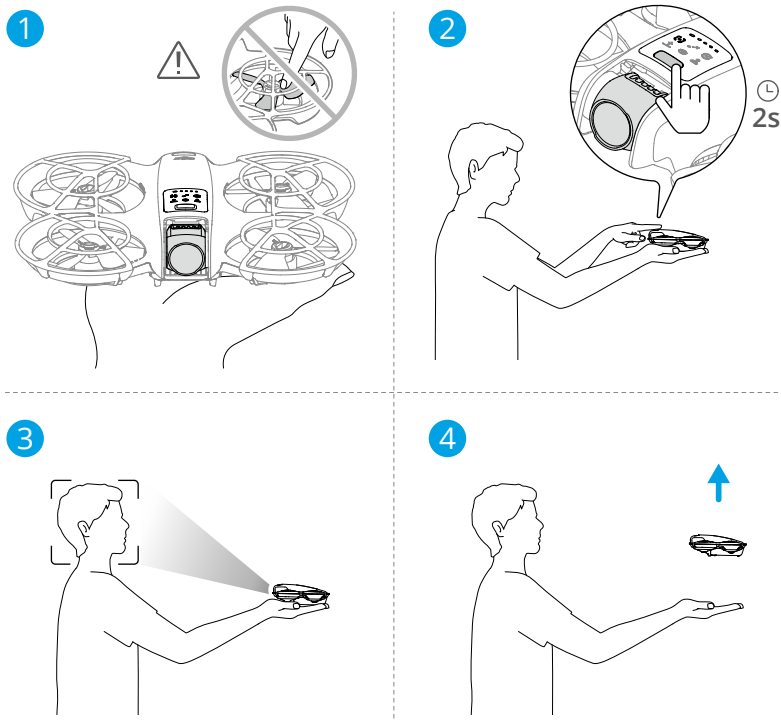
   手のひら離陸をキャンセルするには、カウントダウンの音声プロンプトが終了する前にモードボタンを 1 回押します。

手のひら離着陸とスマートスナップ

⚠ • スマートスナップの使用に際しては、地域のプライバシー法令に必ず従ってください。

1. DJI Neo の電源をオンにします。そのままの状態で、システムの自己診断が完了するのを待ちます。
2. 距離や高さなど、事前に設定されたパラメーターに従って操縦できるように、十分なスペースを確保してください。DJI Neo にあるモードボタンを押して、希望のモードを選択します。
3. 手のひら離陸を使用するには以下の手順に従ってください。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.



a. 手のひら離陸には、被写体の確認が必要です。DJI Neo を手の上に置き、カメラが被写体を向くようにします。手がカメラを遮らないようにし、離陸を妨げる障害物がないことを確認してください。

b. 腕を伸ばし、カメラを被写体に向け、安定させます。モードボタンを長押しします。DJI Neo は選択されたモードとカウントダウンを音声で案内し、その後自動的に離陸します。

- 被写体が障害物に遮られていた場合や、環境の照度が適切でない場合は、離陸に失敗することがあります。
- 手のひら離陸をキャンセルするには、カウントダウンの音声プロンプトが終了する前にモードボタンを 1 回押します。
- 手のひら離陸を使用する場合、DJI Neo は、離陸後に、短い距離を後方に飛行します。飛行の安全性を確保するため、DJI Neo の後方に注意を払ってください。

4. DJI Neo は、選択したモードとプリセットパラメーターに従って、録画を開始したり写真を撮影したりします。
5. 手のひら着陸：

© 2024 DJI All Rights Reserved.

DirectionTrack モードで、DJI Neo の方を向き、静止します。DJI Neo が前方に飛行するのを待ってから、手のひら着陸を行います。

他のモードでは、DJI Neo がその場でホバリングしていることを確認してから、それに向かって移動し、手のひら着陸を行います。

以下の指示に従って手のひら着陸を行ってください。

a. DJI Neo がその場でホバリングしていることを確認します。DJI Neo の方に移動して、腕を伸ばし、その真下に手を置きます。

b. 手を静止させて、指を伸ばします。DJI Neo が自動的に着陸するのを待ちます。手のひら着陸の有効高さ範囲は、DJI Neo の下 0.7 m 以内です。

- 手のひら着陸中、DJI Neo はわずかに上昇してから、手のひらに着地することがあります。プロセス中、手を静止させて、指を伸ばします。

6. DJI Neo を DJI Fly に接続して、映像を見たり、ショートビデオを制作したりできます。詳細については、モバイルアプリでのコントロールのセクションを参照してください。

- フォロー、スポットライト、DirectionTrack モードでは、録画中にカメラが被写体を見失った場合、DJI Neo はその場でホバリングします。Wi-Fi を経由してスマートフォン上で DJI Fly を実行すると、飛行中に DJI Neo に接続します。接続するには、スマートフォンが事前に DJI Fly に接続されている必要があります。[制御] (Controls) ビューで、タスクがすでに停止していることを確認し、モードリストから**マニュアル制御**を選択し、バーチャル ジョイスティックを使って DJI Neo を着陸させます。

3.2 モバイルアプリでのコントロール

モバイルアプリ制御を使用するには、Wi-Fi 経由で DJI Neo をスマートフォンの DJI Fly アプリに接続し、アプリで DJI Neo を制御します。モバイルアプリ制御では、手のひら制御のすべての機能が利用可能です。アプリ内でパラメーターを設定し、スマートスナップを実行することができます。マニュアル制御、音声録音*、音声制御*など、より多くの機能にも対応しています。

* ファームウェアを最新バージョンに更新してください。更新しないと、機能がサポートされていないことがあります。

注記

- モバイルアプリ制御を使用する前に、機体に接続されている送信機とゴーグルの電源を切ってください。電源がオフになっていない場合、スマートフォンが Wi-Fi 経由

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

で接続され、アプリの［制御］(Controls) ビューが開かれると、機体は他のデバイスから自動的に切断されます。

⚠
- Wi-Fi 信号が干渉を受けない、障害物がなく開けた環境で飛行するようにしてください。干渉を受けると、アプリが DJI Neo から切断される可能性があり、飛行の安全性に影響を与える可能性があります。
- モバイルアプリ制御を使用する場合、DJI Neo の最大飛行高度は 30 m、最大飛行距離は 50 m です。
- モバイルアプリ制御では RTH (Return to Home) はサポートされていません。管理区域内では目視内飛行 (VLOS) を維持してください。
- 水上では飛行させないでください。
- 以下の状況では、DJI Neo は自動に着陸します。着陸する際に DJI Neo の紛失や破損を防ぐため、使用環境を必ず守ってください。
  - バッテリー残量の著しい低下。
  - 測位に失敗し、DJI Neo が ATTI モードに入ったとき。
  - DJI Neo が衝突を検知したがクラッシュしなかったとき。

DJI Neo の接続

1. DJI Neo の電源をオンにして、システムの自己診断が完了するまで待ちます。
2. スマートフォンの Bluetooth、Wi-Fi、位置情報サービスを有効にします。
3. アプリのホーム画面右下にある**接続ガイド**をタップし、デバイスモデルを選択し、**モバイルデバイス経由で接続**を選択します。
4. 検索結果から目的のデバイスを選択します。接続に成功すると、［制御］(Controls) ビューが表示されます。初めてスマートフォンを DJI Neo に接続する時、DJI Neo の電源ボタンを長押しして、接続を確定してください。

- また、DJI Fly のホーム画面で、［クイック転送］または［Wi-Fi デバイス］パネルをタップして、Wi-Fi 接続をすることもできます。
- DJI Neo に接続するスマートフォンを変更するには、DJI Neo を新しいスマートフォンに接続する前に、現在接続しているスマートフォンの Bluetooth および Wi-Fi を無効にしてください。

スマートスナップ

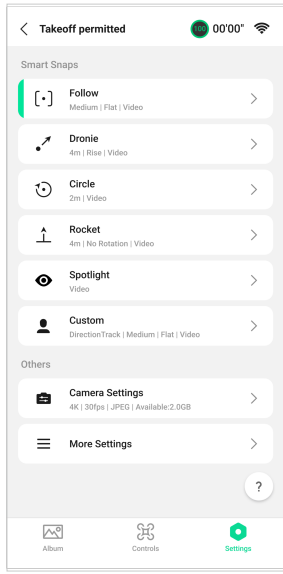
⚠
- スマートスナップの使用に際しては、地域のプライバシー法令に必ず従ってください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

1. パラメーターを設定します：

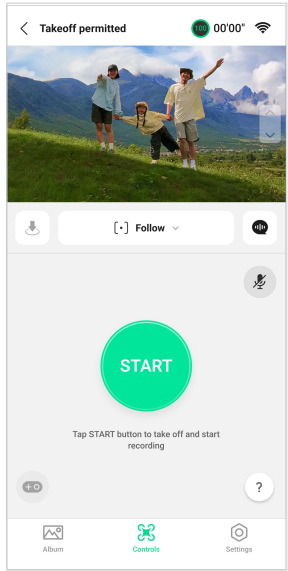
   ［設定］ビューに進みます。特定のモードをタップして、パラメーター設定画面に入ります。**カスタム**をタップして、DirectionTrack、ヘリックス、ブーメランに設定し、対応するパラメーターを調整します。

   カメラ設定をタップして、すべてのスマートスナップモードに同じカメラパラメーターを設定します。



2. スマートスナップを開始します：

© 2024 DJI All Rights Reserved.



a. カメラを被写体に向けて、DJI Neo を安定させます。

b. ［制御］(Controls) ビューに進みます。現在のモードはライブビューで表示されます。タップしてオプションリストを展開し、希望のモードを選択します。画面下部のパラメーターバーをタップすると、現在のモードのパラメーターを設定できます。

c. [開始]をタップします DJI Neo が被写体を正常に確認し、カウントダウンの音声プロンプトが完了すると、自動的に離陸します。

- 被写体が障害物に遮られていた場合や、環境の照度が適切でない場合は、被写体の確認に失敗することがあります。
- DJI Neo 上部のモードボタンを長押しして、手のひら離陸を行うこともできます。関連する通知や手順については、手のひら制御のセクションを参照してください。

d. DJI Neo は、選択したモードとプリセットパラメーターに従って、自動的に飛行し、映像を録画します。ライブビューと映像の録画時間を確認することができます。

スポットライトモードでは、DJI Neo はその場でホバリングし、被写体にカメラを向け続けます。カメラモードを「写真」に設定すると、被写体が 3 秒間一定のポーズを維持することで、DJI Neo を自動的にトリガーして写真を撮影することができます。

3. スマートスナップを終了します：

スマートスナップを終了する方法は、モードによって異なります。

ドローニー、サークル、ロケット、ヘリックス、ブーメラン

© 2024 DJI All Rights Reserved.

DJI Neo は録画後にスマートスナップを終了します。録画タスクが完了していない場合は、［停止］をタップして録画を終了させることができます。DJI Neo はその場でホバリングします。

フォロー、スポットライト

録画中に［停止］をタップすると、スマートスナップが終了します。また、DJI Neo の方向に移動して手のひら離陸を行うと、自動的に録画が停止します。DJI Neo はその場でホバリングします。

DirectionTrack

録画中に［停止］をタップすると、スマートスナップが終了します。DJI Neo はその場でホバリングします。また、被写体は DJI Neo を向いて静止することで、スマートスナップを終了させることができます。DJI Neo は録画を停止し、被写体に向かって飛行します。手のひら着陸が可能になります。

DJI Neo を着陸させない場合は、スマートスナップを終了した後、アプリで同じスマートスナップ タスクを再度開始することができます。アプリの指示に従って、手のひらに DJI Neo を着陸させることもできます。または、モードリストの左側にある をタップした後、長押しして着陸させます。

- 手のひら着陸に関連する通知や手順については、手のひら制御のセクションを参照してください。

アルバムを表示

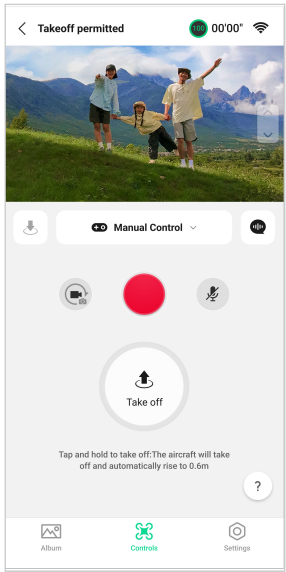
［アルバム］をタップすると、撮影した映像が表示されます。

ドローニー、サークル、ロケット、ヘリックス、ブーメランのモードでは、**[クイックショットを作成] (Create QuickShots)** をタップすると映像をプレビューできます。また、他のテンプレートから選択したり、手動で映像を編集したりすることもできます。

- DJI Neo は、ECO モードに対応しています。DJI Neo に Wi-Fi 接続してアプリでアルバムを閲覧する場合、モバイルアプリ制御モードおよびクイック転送モードの両方で、DJI Neo が一定の温度以上になると自動的に ECO モードが有効になります。アプリに表示されたプロンプトに注意してください。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

手動制御



1. DJI Neo を平らな地面に置きます。
2. ［制御］(Controls) ビューで、ライブビューの下にあるモードリストをタップし、**[マニュアル制御] (Manual Control)** を選択します。
3. を長押しします。DJI Neo がモーターを始動させ、自動的に 0.6 m の高さまで上昇します。

   手のひら離陸を実行することもできます。手のひら制御とは異なり、マニュアル制御での手のひら離陸では、被写体の確認は必要ありません。関連する通知や手順については、手のひら制御のセクションを参照してください。
4. アプリ画面のバーチャルジョイスティックで DJI Neo をコントロールします。左スティックは、飛行高度と方向を制御します。右スティックは、前後左右の動きを制御します。

   ⚠ • DJI Neo は障害物検知機能に対応していません。飛行の安全性を確保するため、目視内での飛行を推奨します。
5. カメラビューでライブビューを確認します。写真と動画を切り替えるには、写真／動画切り替えボタンをタップします。ライブビューの右側にあるスライダーをスライドさせ、ジンバルのピッチをコントロールします。
6. 写真モードで、シャッターボタンをタップして写真を撮影します。動画モードで、録画ボタンをタップし、録画を開始します。もう一度タップすると録画が停止します。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

7. を長押しすると、DJI Neo を着陸させることができます。手のひら着陸を実行することもできます。

アプリでの音声録音

制御ビューで、画面右の をタップし、音声録音を有効にします。ステータスが に変更します。プロンプトに従って、マイクに音声録音の許可を与えます。また、カメラ設定に入り、アプリ録画を有効にし、ノイズ低減エフェクトを選択することもできます。

モバイルアプリ制御を使用すると、DJI Neo が映像を録画している間、対応する音声録音デバイスによって音声が録音されます。ライブビューにマイクのアイコンが表示されます。

対応する音声録音デバイスには、スマートフォンの内蔵マイク、DJI Mic 2、DJI Mic、Bluetooth イヤホンなどがあります。対応 Bluetooth 機器一覧は、DJI Neo 公式ウェブページのダウンロードページをご参照ください。使用する Bluetooth イヤホンによっては、音声録音の互換性に問題が生じる場合があります。録音の前に、必ずテストを行ってください。

- 録音中に画面をオフにしたり、他のアプリに切り替えたりしないでください。

- 音声録音は、録音前にのみ有効または無効にできます。
- DJI Fly でアルバムビューの動画を視聴・ダウンロードする場合、音声録音機能で録音した音声は、自動的に動画ファイルに合成されます。

音声操作

［制御］ビューで、ライブビューにおける画面右の をタップし、音声操作を有効にします。音声コマンドを使用して、DJI Neo をコントロールします。ポップアップウィンドウの対応するボタンをタップすると、共通のコマンドが表示されます。

また、音声ウェイクアップによる音声コントロールを有効にすることもできます。［設定］ビューに進み、**詳細設定 (More Settings) > 制御 > 音声操作設定 (Voice Control Settings)** をタップします。**音声ウェイクアップ (Voice Wake-up)** を有効にして、プロンプトに従ってマイクを許可します。モバイルアプリ制御を使用する場合は、**Hey Fly（ヘイフライ）**と呼びかけて音声コントロールを起動し、音声コマンドで DJI Neo を操作します。［音声操作設定］で一般的なコマンドを表示します。

- 音声操作は、アプリの言語に従って、英語または中国語（北京語）に対応しています。
- 音声操作を使用する際は、スマートフォンの音量を上げて、最適な体験ができるようにしてください。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

3.3 RC 制御

自動離陸

1. DJI Fly を起動して、カメラビューに入ります。
2. フライト前チェックリストの手順をすべて完了します。
3. をタップします。安全に離陸できる状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
4. 機体は離陸し、地上約 1.2 m の高さでホバリングします。

自動着陸

1. 安全に着陸できる状態である場合は、 をタップし、次に を長押しして確定します。
2. をタップすると、自動着陸をキャンセルできます。
3. 下方ビジョンシステムの動作が正常であれば着陸保護が有効化されます。
4. 着陸後、モーターは自動で停止します。

⚠ • 着陸に適切な場所を選択してください。

モーターの起動／停止

モーターの始動

以下に示すように、コンビネーション スティック コマンド（CSC）のいずれかを実行して、モーターを始動させます。モーターの回転が始まったら、両方のスティックを同時に放します。



モーターの停止

以下の 2 つの方法でモーターを停止できます。

方法 1：機体が着陸したら、モーターが停止するまで、スロットルスティックを下方向に倒し続けます。

© 2024 DJI All Rights Reserved.



方法 2：機体が着陸したら、以下に示すように、モーターが停止するまで、いずれかの CSC を実行します。



飛行中のモーター停止

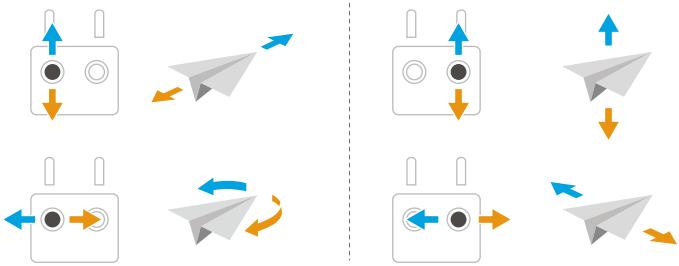
⚠ • 飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。

DJI Fly アプリの**プロペラ緊急停止**のデフォルト設定は、**緊急時のみ**です。つまり、機体が衝突する、モーターが失速する、機体が空中でローリングする、機体が制御不能になり急上昇／急下降するなどの緊急事態を機体が検出した場合にのみ、モーターを飛行中に停止できます。飛行中にモーターを停止させるには、モーターの始動と同じ CSC を実行します。モーターを停止する場合は、CSC コマンドを実行している間、操作スティックを 2 秒間倒し続ける必要があります。**プロペラ緊急停止**はアプリで**随時**変更できます。このオプションは注意して使用してください。

機体の制御

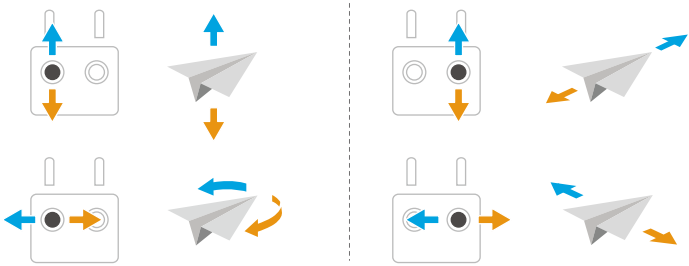
送信機の操作スティックを使用して、機体の動きを制御します。以下に示すように、操作スティックは、モード 1、モード 2、モード 3 で操作できます。

モード 1

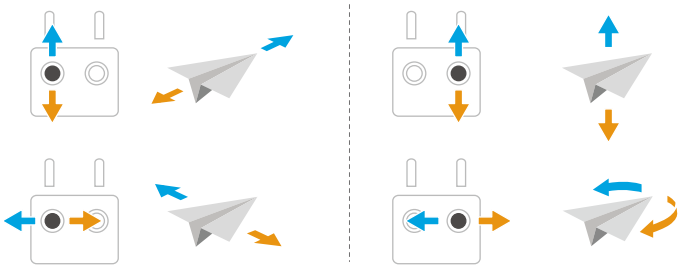


 © 2024 DJI All Rights Reserved.

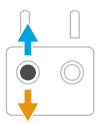
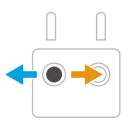
モード 2



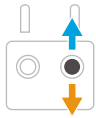
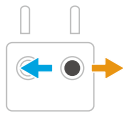
モード 3



送信機のデフォルトの制御モードは、モード 2 です。本マニュアルでは、操作スティックの使用方法を説明するために例としてモード 2 を使用しています。

送信機（モード 2）	機体	動作
		スロットルスティック • 上昇させるにはスティックを上に倒し、下降させるには下に倒します。 • スティックが中央位置から離れるほど、機体の上昇速度が速くなります。 機体の高度を急激に変えないよう、離陸時には操作スティックは優しく押し上げてください。
		ヨースティック • スティックを左に倒すと機体は反時計回りに回転し、右に倒すと時計回りに回転します。 • スティックが中央位置から離れるほど、機体の回転速度が速くなります。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

送信機（モード 2）	機体	動作
		ピッチスティック • スティックを上に倒すと前進し、下に倒すと後進します。 • スティックが中央位置から離れるほど、機体の移動速度が速くなります。
		ロールスティック • 左に倒すと左に飛び、右に倒すと右に飛びます。 • スティックが中央位置から離れるほど、機体の移動速度が速くなります。

離陸／着陸手順

⚠ • 照度が明るすぎる場合や暗すぎる場合は、飛行監視のために送信機またはモバイルデバイスを使用しながら機体を操作しないでください。画面が見づらくならないよう、ディスプレイの明るさや画面への直射日光の量を正しく調整する責任があります。

1. フライト前チェックリストの目的は、操縦者が安全に飛行することにあります。飛行前は、毎回フライト前のチェックリストをすべて確認してください。
2. 見晴らしのよい平らな場所に、機体の後面を自分の方を向くようにして機体を置きます。
3. 送信機と機体の電源を入れます。
4. DJI Fly を起動して、カメラビューに入ります。
5. •••> **安全**をタップし、適切な**自動 RTH 高度**および**最大高度**を設定してください。
6. システムの自己診断が完了するまで待ちます。DJI Fly に異常な警告が表示されない場合は、モーターを始動できます。
7. スロットルスティックをゆっくり上に倒して、離陸させます。
8. 着陸させるには、平らな地面の上でホバリングし、スロットルスティックを下に倒して下降させます。
9. 着陸後、モーターが停止するまでスロットルを下方向に倒し続けます。
10. 先に機体の電源を切り、送信機の電源を切ります。

• 送信機の使用時は、DJI Neo 上部のモードボタンを長押しすることで、手のひら離陸 * が可能です。機体を着陸させるには、手のひら着陸を実行することもできます。手のひら制御のスマートスナップには対応していません。関連する通知と指示は、手

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

のひら制御の場合と同様です。違いは、離陸前に被写体確認が必要ないことです。詳しくは、手のひら制御のセクションを参照してください。

* ファームウェアを最新バージョンに更新してください。更新しないと、機能がサポートされていないことがあります。

インテリジェント フライトモード

フォーカストラック

フォーカストラックには、スポットライト、ポイント オブ インタレスト (POI)、アクティブトラックのモードがあります。

- フォーカストラックを使用中、機体は写真や動画を自動撮影しません。写真撮影や動画録画を行うには、機体を手動で制御します。

スポットライト：飛行を手動で制御している間、カメラは常に被写体の方向を向きます。

POI：機体は設定された半径と飛行速度をもとに、被写体を中心に旋回します。

アクティブトラック：機体は動く被写体を一定の距離と高度でトラッキングします。アクティブトラックでは、人間のみトラッキングできます。

- アクティブトラックでは、送信機を使って機体の向きを操作したり、上昇や下降、前進や後進を行うことができます。

アクティブトラックで、機体と被写体の対応フォロー範囲は次のとおりです。

被写体	人
水平距離	2～7 m（最適距離：2～5 m）
高度	0.5～5 m（最適距離：0.5～3 m）

- DJI Fly は、アクティブトラックの開始時に、距離と高度が範囲外の場合、プロンプトを表示します。この場合、機体を手動で対応範囲まで飛行させ、再度アクティブトラックを開始してください。トラッキングパフォーマンスを最大限に発揮するためには、機体を最適な距離と高度まで飛行させてください。

注記

- 本機体には、障害物検知機能は搭載されていません。フォーカストラック使用時には、飛行安全性を確保するため周囲の環境に注意を払ってください。
- 緊急事態が発生した場合に備えて、送信機の飛行一時停止ボタンを押すか、または Stop をタップして、機体を手動で操作できるように常に準備しておいてください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

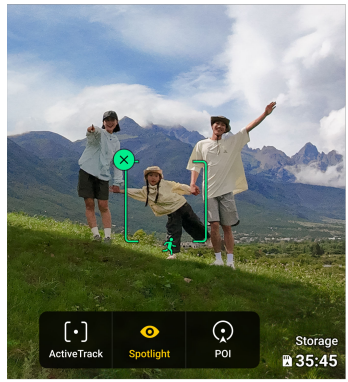
- 以下のような状況でフォーカストラックを実行する場合には、特に注意してください。
  - 追尾している対象が水平ではない面上で動いている。
  - 追尾している対象が大きく動いたり、ポーズが変わったりしている。
  - 追尾している対象を長時間にわたって見ることができない。
  - 追尾している対象が雪に覆われた表面上で移動している。
  - 追尾している対象の服装が、その周囲環境と同様な色またはパターンである。
  - 明るさが非常に暗い（15 ルクス未満）、または非常に明るい（10,000 ルクス超）場合。
- フォーカストラックの使用に際しては、地域のプライバシー法令に必ず従ってください。
- 人のみをトラッキングすることを推奨します。他の対象を追尾する場合は、注意して飛行してください。
- 追尾対象が他の対象に近づくと、追尾対象が誤ってもう一方の対象に切り替わってしまう可能性があります。
- フォーカストラックは機体が地上にあるときには使用できません。
- 機体が飛行制限に近い状態で飛行している場合や GEO 区域内を飛行している場合、フォーカストラックが正しく機能しないことがあります。
- 写真モード中でシングル撮影時は、フォーカストラックのみ利用できます。
- 被写体が遮られた場合、または機体が被写体を見失った場合、機体はホバリングして、被写体の再確認を試みます。機体が被写体を再識別できなかった場合は、自動的にアクティブトラックを終了し、ホバリングします。

フォーカストラックの使用

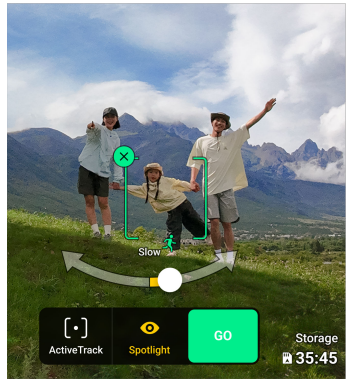
フォーカストラックを有効にする前に、飛行環境が開けた場所で障害物がないこと、および周囲の照度が十分であることを確認してください.

1. アプリの左側のフォーカストラックアイコンをタップするか、画面上の被写体を選択してフォーカストラックを有効にしてください。有効にした後、フォーカストラックアイコンをもう 1 回タップすると終了できます。
2. スポットライトはフォーカストラックのデフォルトのモードですスポットライトでは機体は自動飛行しませんが、ユーザーが飛行を手動で制御している間、カメラは被写体にロックされたままになります送信機または画面の[シャッター／録画]ボタンをタップすると、写真の撮影または動画の録画が開始されます

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

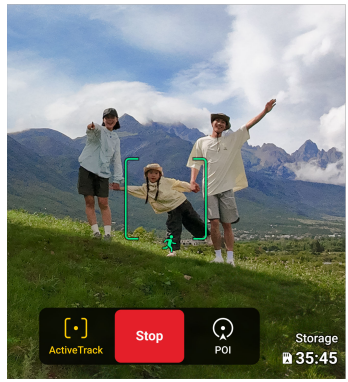


3. 画面下部をタップし、ポイント オブ インタレストに切り替えます。飛行方向と速度を設定した後、 GO をタップすると、機体は現在の高度で被写体周囲を旋回し始めます。送信機または画面の[シャッター／録画]ボタンをタップすると、写真の撮影または動画の録画が開始されます



4. 画面下部をタップし、アクティブトラックに切り替えます。 GO をタップすると、機体は自動的に被写体のトラッキングを開始します。送信機または画面の[シャッター／録画]ボタンをタップすると、写真の撮影または動画の録画が開始されます

© 2024 DJI All Rights Reserved.



フォーカストラックの終了

POI またはアクティブトラックモードの場合、送信機の飛行一時停止ボタンを押すか、または画面上の Stop をタップすると、最初にスポットライトモードに戻りますスポットライトモードで、送信機の飛行一時停止ボタンを 1 回押すと、フォーカストラックが終了します

クイックショット

クイックショットでは、ドローニー、ロケット、サークル、ヘリックス、ブーメランなどの撮影モードがあります。機体では、選択した撮影モードに従って自動で録画し、短い動画を生成します。

注記

- ブーメラン機能を使用する時は十分なスペースを確保してください。機体の周囲は半径 30 m 以上、上空は 10 m 以上のスペースが必要です。
- クイックショットは、建物などの障害物がない場所で使用してください。飛行経路に人物、動物、その他の障害物がないことを必ず確認してください。
- 常に機体周辺の物体に注意し、送信機を使用して機体の衝突や機体への障害物を回避してください。
- 誤って操作スティックを動かすと、録画は停止します。また、機体が制限区域または高度制限区域に近づきすぎたり、飛行中に機体の障害物回避機能が作動したりすると、録画が停止します。
- 次の状況ではクイックショットを使用しないでください。
  - 被写体が長時間遮られているか目視外にある場合。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

- 被写体が機体から 10 m 以上離れている場合。
- 被写体の色や模様が周囲と似ている場合。
- 被写体が空中にある場合。
- 被写体が速く動いている場合。
- 明るさが非常に暗い（15 ルクス未満）、または非常に明るい（10,000 ルクス超）場合。

- 建物の近くや GNSS 信号が弱い場所でクイックショットを使用しないでください。そのような場合は、飛行経路が不安定になります。
- クイックショットを使用する場合は、必ず現地のプライバシー法令に従ってください。

クイックショットの使用

1. 機体を離陸させ、地面から 2 m 以上でホバリングさせます。
2. カメラビュー右側の撮影モードアイコンをタップして、[クイックショット] を選択します。
3. サブモードを選択し、+アイコンをタップするか、または画面上をドラッグして被写体を選択します。 Start をタップすると撮影を始めることができます。機体は、選択したオプションに従って事前に設定された飛行動作を実行しながら映像を記録し、その後、動画を生成します。録画が終了すると、機体は元の位置に飛行して戻ります。

クイックショットの終了

をタップするか、送信機の飛行一時停止ボタンを 1 回押します。機体は直ちにクイックショットを終了し、ホバリングします。

動画の再生

録画終了後、再生ボタン をタップしてマスターショット動画をプレビューできます。

クイックショットを作成をタップして、クイックショット動画をプレビューします。

クルーズ制御

クルーズ制御は、機体が自動的に一定の速度で飛行することを可能にし、長距離飛行を楽にし、手動操作中に発生しがちな映像のブレを回避できます操作スティック入力を増やすことによる旋回上昇など、より高度なカメラ動作に対応します

1. クルーズ制御ボタンの設定

© 2024 DJI All Rights Reserved.

この機能を使うには、最初にクルーズ制御ショートカットボタンを設定する必要があります DJI Fly のカメラビューで **••• > 制御 > ボタンのカスタマイズ**をタップし、送信機のカスタマイズ可能なボタンの 1 つを**クルーズ制御**に設定します。

2. **クルーズ制御の開始**

   - 操作スティックを倒しながらクルーズ制御ボタンを 1 回押すと、機体は現在の速度で自動飛行を続けます。この時点で、操作スティックから指を放すことができます。
   - 操作スティックが中央に戻った後に操作スティックを倒した場合は、機体ははじめにクルーズ制御ボタンを押した時の速度を基準に更新した速度で飛行します。この状態でクルーズ制御ボタンを再度押すと、機体は更新した速度で自動飛行を継続します。

3. **クルーズ制御の終了**

   クルーズ制御を終了するには、送信機の飛行一時停止ボタンを 1 回押すか、カメラビューで ⊗ をタップするか、または操作スティックを操作していない状態でクルーズ制御ボタンを 1 回押します。機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。

⚠
- ノーマルモード、シネモード、スポーツモードで機体を手動操作している場合に、クルーズ制御を利用できます。クルーズ制御は、スポットライトを使用している場合にも使用できます。
- 操作スティックの入力がない状態では、クルーズ制御を開始することはできません。
- 以下の状況では、機体はクルーズ制御に入ることができないか、クルーズ制御を終了します。
  - 最大高度または最大距離に近い場合。
  - 機体と送信機または DJI Fly アプリの接続が切断された場合。
  - 機体が離陸中、帰還中、または着陸中。
  - フライトモードの切り替え時。
- DJI Neo は障害物検知機能を搭載していません。慎重に飛行してください。

アプリでの音声録音

アプリのカメラビューで、**[••• > カメラ]** をタップして、アプリ録画を有効にし、ノイズ低減エフェクトを選択します。機体が映像を録画している間、対応する音声録音デバイスによって音声が録音されます。ライブビューにマイクのアイコンが表示されます。

対応する音声録音デバイスには、スマートフォンの内蔵マイク、DJI Mic 2、Bluetooth イヤホンなどがあります。対応 Bluetooth 機器一覧は、DJI Neo 公式ウェブページのダウンロードページをご参照ください。使用する Bluetooth イヤホンによっては、音声録音の互換性に問題が生じる場合があります。録音の前に、必ずテストを行ってください。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

- ⚠ • 録音中に画面をオフにしたり、他のアプリに切り替えたりしないでください。
- 💡 • 音声録音は、録音前にのみ有効または無効にできます。
  • DJI Fly でアルバムビューの動画を視聴・ダウンロードする場合、音声録音機能で録音した音声は、自動的に動画ファイルに合成されます。

3.4 没入型モーションコントロール

- 💡 • このセクションでは、DJI Neo を、DJI Goggles N3(以下「ゴーグル」)および DJI RC Motion 3(以下「モーションコントローラー」)と併用した場合の飛行操作について説明します。詳細な使用方法については、ゴーグルおよびモーションコントローラーの対応するユーザーマニュアルを参照してください。

以下の手順は、ユーザーが機体を適切に操作するのに役立ちます。

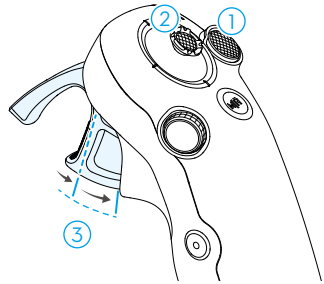
1. 見晴らしのよい平らな場所に、機体の後面をユーザーの方を向くようにして機体を置きます。
2. ゴーグル、送信機、機体の電源を入れます。
3. 機体ステータスインジケーターがゆっくりと緑色に点滅するまで待ち、ゴーグルを装着します。
4. モーターを始動します。
5. ゴーグルの飛行ライブビューをチェックして、警告プロンプトがなく、GNSS 信号が強いことを確認します。
6. ロックボタンを 2 回押すと機体のモーターが起動し、長押しすると機体が離陸します。機体は約 1.2 m まで上昇し、ホバリングします。
7. 機体がホバリング中にロックボタンを長押しすると、機体が自動着陸してモーターが停止します。
8. 機体、ゴーグル、送信機の電源を切ります。

飛行の基本

- 💡 • 初めて飛行する前に、ゴーグル内のチュートリアルガイドを視聴することをお勧めします。**設定 > 制御 > Motion Controller Flight Tutorial（モーションコントローラーの飛行チュートリアル）**に進みます。

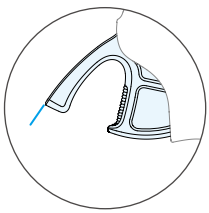
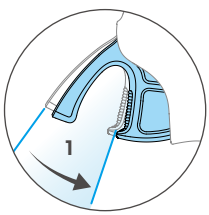
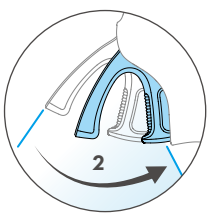
DJI RC Motion 3 のロックボタン、ジョイスティック、アクセルを使用して機体を操作します。

© 2024 DJI All Rights Reserved.



1. ロックボタンを使用して、機体の離陸、着陸、およびブレーキを制御します。
2. ジョイスティックを動かすと、機体が上昇、下降、水平方向の左または右に動きます*。
3. アクセルを操作するときの圧力は 2 段階あります。最初と 2 番目の停止位置の中間の位置で軽く引くと、一時停止をはっきりと感じることができます。アクセルをさまざまな停止位置で操作し、機体のさまざまな操作を制御します。

* 簡単 ACRO が有効でない場合、または簡単 ACRO 操作でスライドが選択されている場合。

	アクセルを操作しないと、機体はホバリングします。
	アクセルを最初の停止位置まで軽く引くと、モーションコントローラーを左右に垂直に傾けて機体の向きを調整することができます。 このとき、機体が前方に飛行しないことに注意してください。
	アクセルを 2 番目の停止位置まで引くと、機体がゴーグルの円の方向に飛行します。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

離陸、制動、着陸

離陸：ロックボタンを 2 回押すと機体のモーターが始動し、もう一度ボタンを長押しすると機体が離陸します。機体は約 1.2 m まで上昇し、ホバリングします。

制動：飛行中にロックボタンを押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。再度押すと飛行制御を再開します。

着陸：機体がホバリング中にロックボタンを長押しすると、機体が自動着陸してモーターが停止します。

- ロックボタンを 2 回押して機体のモーターが起動したら、ジョイスティックをゆっくりと上に倒して機体を離陸させます。
- 簡単 ACRO が無効の場合、機体が着陸位置まで飛行したら、ジョイスティックを軽く下方に押すと着陸します。着陸後、ジョイスティックを下に倒した状態のままにすると、モーターが停止します。

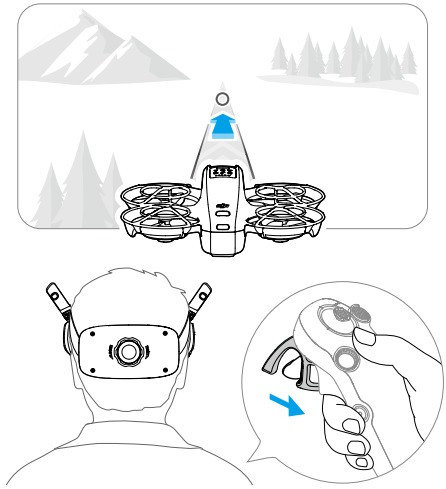
- 飛行中に緊急事態（衝突や機体の制御不能など）が発生した場合、ロックボタンを 4 回押すと飛行中のモーター停止が作動し、機体のモーターを直ちに停止できます。**飛行中モーター停止機能を使用すると機体が墜落します。慎重に操作してください。**
- モーションコントローラー使用時の飛行安全性を確保するため、ゴーグルを操作する前にロックボタンを一度押してブレーキをかけて、ホバリングさせてください。これを行わない場合、安全性のリスクが高まり、機体が制御できなくなったり、周囲の人の怪我を誘発する要因となります。

前方と後方への飛行

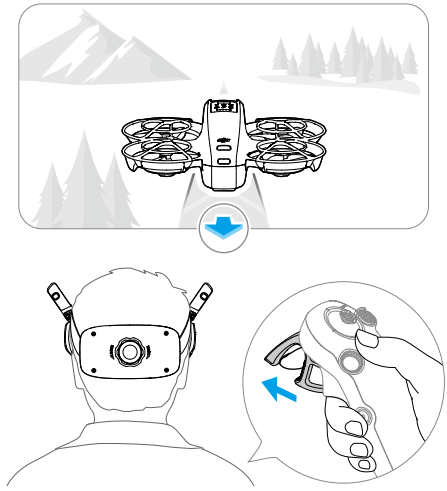
モーションコントローラーのアクセルを押すか、または押し込むと、前方または後方に飛行します。アクセルを押すか、または押し込むと、より大きな圧力がかかります。離すと停止して、ホバリングします。

アクセルを 2 番目の停止位置まで引くと、機体がゴーグルの円の方向に飛行します。

© 2024 DJI All Rights Reserved.



アクセルを前方に押すと、機体は後方に飛行します。

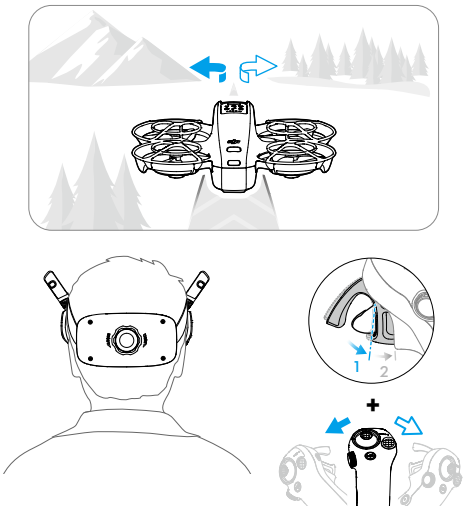


機体の向きの調整

アクセルを軽く最初の停止位置まで引くと同時に、モーションコントローラーの上部をいずれかの方向に傾けると、機体が回転します。モーションコントローラーの傾斜角が大きくなるほ

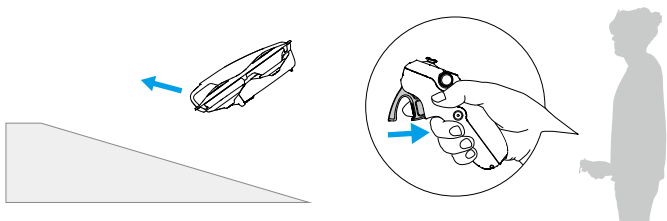
 © 2024 DJI All Rights Reserved.

ど、機体の回転は速くなります。ゴーグル内の画面に表示されるサークル（円）が左右に動き、それに応じて飛行ライブビューも変化します。



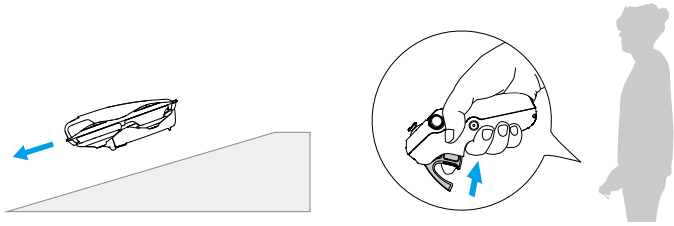
機体を斜めに傾けて上昇または下降させる

機体を上向きに飛行させる必要がある場合は、アクセルを 2 番目の停止位置まで引くと同時に、モーションコントローラーを上方に傾けます。



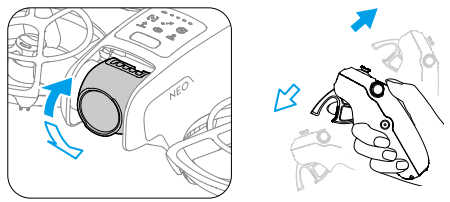
機体を下向きに飛行させる必要がある場合は、アクセルを 2 番目の停止位置まで引くと同時に、モーションコントローラーを下方に傾けます。

© 2024 DJI All Rights Reserved.



ジンバルとカメラの操作

飛行中、またはアクセルが押されておらず機体がホバリングしているときは、モーションコントローラーを上下に傾けて、ジンバルの傾きをコントロールできます。ジンバルのチルトはモーションコントローラーの傾きに応じて変化し、モーションコントローラーの向きと常に一致します。ゴーグル内のサークルは上下に動き、それに応じて飛行ライブビューも変化します。



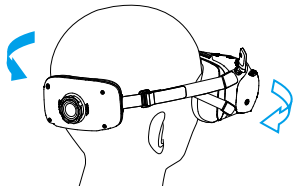
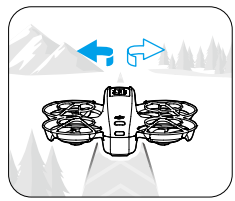
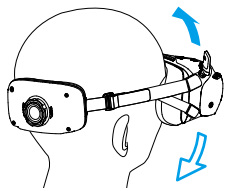
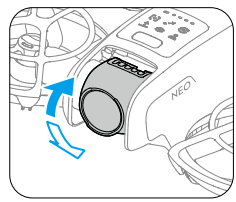
⚠
- 離陸前、またはロックボタンを使用して機体をホバリングさせる場合、ジンバルの傾きは制御できません。
- モーション コントローラーのダイヤルを使用して、離陸前、または RTH および着陸中に、上下にスクロールするとカメラの傾きを調整できます。

ヘッドトラッキング

ヘッドトラッキングを有効にすると、フライト中の頭部の動きで機体の水平方向とジンバルのチルトを制御できます。飛行ライブビューからショートカットメニューを開き、クイックコントロールメニューにアクセスし、 をクリックするとヘッドトラッキングが有効になります。

ヘッドトラッキングモードに入ると、モーションコントローラーはジンバルチルトを制御できなくなり、機体を介した制御のみが有効になります。アクセルを操作しなくても、モーションコントローラーを傾けることで機体の向きを制御できます。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

簡単 ACRO

モーションコントローラーを使用して、前方フリップ、後方フリップ、ロール、180°ドリフトなどの簡単 ACRO 動作を実行します。

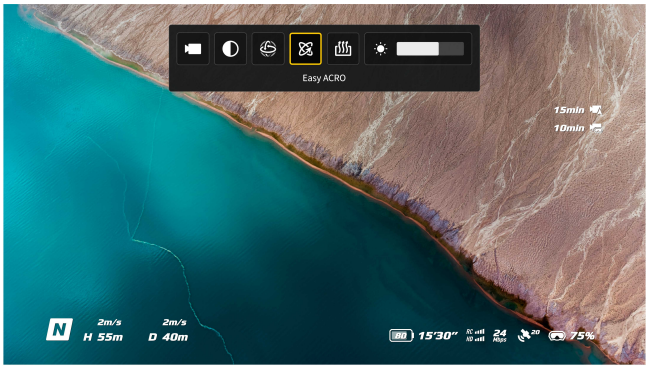
⚠
- 周囲に注意し、近くに障害物がないことを確認してから、簡単 ACRO の動作を実行してください。
- 簡単 ACRO は次の状況では使用できません：
  - 機体が離陸中、ホバリング中、着陸中、または帰還中
  - 機体がスポーツモードになっている
  - 機体のバッテリー残量が 35%未満
  - 機体の高度が 1.5 m 未満
  - 風速が 4 m/s を超えている
  - 測位性能が低い（GNSS とビジョンシステムが利用できない）
  - 機体が制限区域や高度制限区域のバッファゾーンにいる、または最大飛行距離に近づいている
- 簡単 ACRO は、次のような状況で注意して使用してください：
  - 機体の姿勢角が大きくなる場合（旋回時、急加速・急減速時、風速が 2m/s を超えている時など）、機体の高度も上げる必要があります。高度を上げなければ、簡単 ACRO が利用できない場合があります。
  - 機体の姿勢角が安定しない場合（旋回時、急加速・急減速時、風速 2m/s を超えている、簡単 ACRO 連続発動時など）、簡単 ACRO を実行した後、機体が横流れ

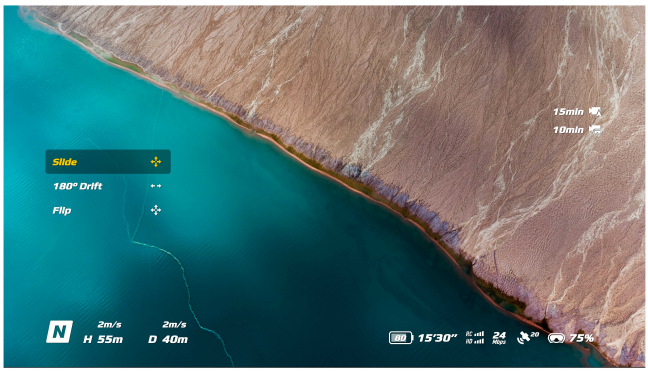
© 2024 DJI All Rights Reserved.

したり、高度が安定しなかったりする場合があります。衝突を避けるため、周囲の環境と機体の高度に注意すること。

- 次の状況では、簡単 ACRO を有効にすることはできません：
  - 録画中
  - ヘッドトラッキングが有効な場合
  - FPV 送信機 3 と併用する場合。

1. ショートカットメニューを開き、**簡単 ACRO** を選択します。機体は簡単 ACRO モードに入ります。ゴーグルのライブビューの左側に選択した動作が表示されます。





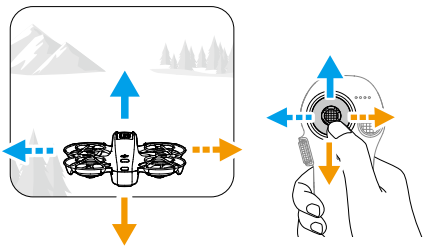
2. モーションコントローラーのダイヤルを使用して、簡単 ACRO 動作を切り替えます。
3. 簡単 ACRO が有効になっている場合、ジョイスティックを動かして、以下のようなさまざまな簡単 ACRO 動作を実行します。

スライド

ジョイスティックを上下に押すと、機体が上昇または下降します。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

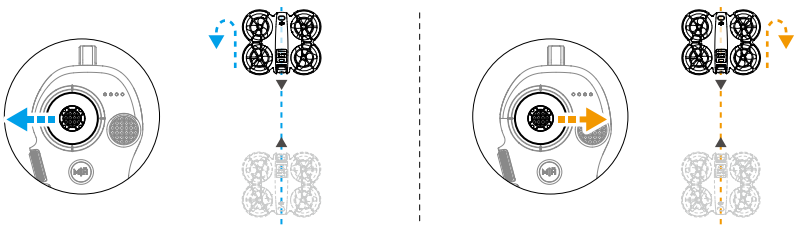
ジョイスティックを左右に押すと、機体が水平方向の左右に動きます。



180°ドリフト

ジョイスティックを左右に押すと、機体を左右に 180°ドリフトさせることができます。

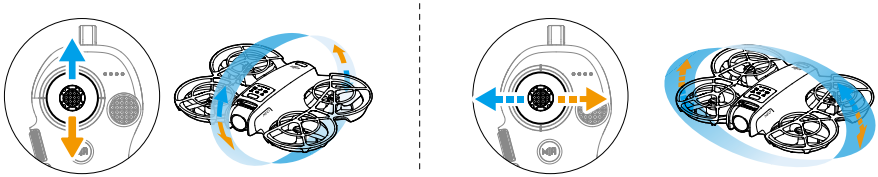
この動作モードでは、ジョイスティックを上下に押しても機体は反応しません。



フリップ

ジョイスティックを上下に押すと、機体が前方または後方フリップします。

ジョイスティックを左右に押すと、機体が左右に 1 回転します。



© 2024 DJI All Rights Reserved.

3.5 録画に関する提案とヒント

1. フライト前チェックリストの目的は、操縦者が安全に飛行し、飛行中に動画を撮影できるようにすることにあります。飛行前は、毎回フライト前のチェックリストをすべて確認してください。
2. 送信機を使用している場合は、ノーマルモードまたはシネモードで飛行している時に、写真や動画を撮影することをお勧めします。
3. 雨や風の強い日などの悪天候時には飛行させないでください。
4. 最も好みにあったカメラ設定を選択してください。
5. 飛行ルートと撮影シーンを想定し飛行テストを実施してください。
6. スムーズで安定した飛行を実現するために、DJI Neo をやさしく操作するようにしてください。
7. 飛行後、DJI Neo の両側の空気取り入れ口に異物があるときは、詰まりを防ぐために取り除いてください。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

DJI Neo

© 2024 DJI All Rights Reserved.

4 DJI Neo

4.1 フライトモード

手のひら制御およびモバイルアプリ制御を使用する場合、DJI Neo はフライトモードの切り替えに対応していません。

DJI RC-N3 送信機を使用する場合、送信機のフライトモードスイッチを使用して、フライトモードをノーマル、スポーツ、シネの間で切り替えることができます。

モーションコントローラーの使用時は、モーションコントローラーのモードボタンでフライトモードをノーマルとスポーツの間で切り替えることができます。

FPV 送信機の使用時は、送信機のフライトモードスイッチを使用して、フライトモードをノーマル、スポーツ、マニュアルの間で切り替えることができます。

ノーマルモード：機体は正確なホバリングと安定した飛行が可能で、ほとんどの飛行シナリオに適しています。

スポーツモード：スポーツモードでは、機体の最高水平飛行速度が上昇します。

シネモード：シネモードはノーマルモードに基づいていますが、飛行速度が制限されるため、撮影中の機体はより安定します。

マニュアルモード：操縦性の自由度を究極まで高めたクラシックな FPV 機体制御モードです。マニュアルモードでは、正確なホバリングや自動ブレーキなどのすべての飛行支援機能が無効になり、熟練した操縦スキルが要求されます。

DJI Neo は、測位がうまくいかない場合、自動的に ATTI モードに切り替わります。ATTI モードでは、DJI Neo は水平方向にドリフトする可能性があり、正確なホバリングやブレーキをすることはできません。事故が起こらないように、できるだけ早く DJI Neo を着陸させてください。狭いスペースや照度の不十分なエリアでの飛行は避けてください。これを守らないと、DJI Neo は ATTI モードに入り、危険な状態になる可能性があります。

- フライトモードは、送信機を使用したマニュアル飛行でのみ有効です。
- マニュアルモードは、DJI FPV 送信機 3 を使用した場合のみ対応しています。スロットルスティックの調整も可能です。詳細については、DJI FPV 送信機 3 ユーザーマニュアルを参照してください。

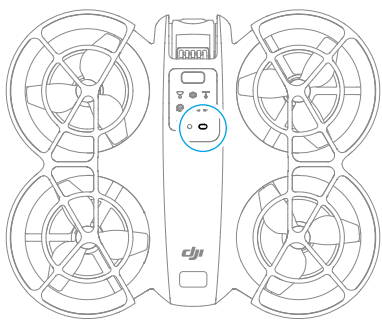
- スポーツモードでは、機体の最高飛行速度と制動距離が著しく増加します。無風状態の場合、制動距離は少なくとも 15 m 必要です。
- スポーツモードまたはノーマルモードでの機体の上昇時と下降時は、無風状態の場合で、少なくとも 5 m の制動距離が必要です。
- スポーツモードでは、機体の応答性が著しく向上します。そのため、送信機の操作スティックをわずかに動かしただけでも、機体は長距離を移動します。飛行中は必ず、十分な飛行スペースを確保するようにしてください。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

- スポーツモードで録画した動画は、映像揺れが発生する場合があります。
- DJI Neo は、マニュアルモードの入門用ドローンとして使用できます。スロットル制御、高度維持、水平飛行の練習には適していますが、連続した高速飛行や、ダイブ、スプリット S、パワーループ、ヨースピンなどの高機動性アクションには適していません。適していないアクションを行うと、推進力の限界により、機体の姿勢を制御できなくなる可能性があります。
- マニュアルモードでは、ノーマルモードまたはスポーツモードに切り替えた時、ブレーキをかけた時、または機体が最大飛行高度の限界に達した時に、機体は ATTI モードに入り、飛行要件またはビジョンシステムの動作要件を満たしていない場合に、安定したホバリングができなくなることがあります。
- 機体の飛行高度が 5 m 未満の場合、または機体の周囲半径 5 m 以内に障害物がある場合、マニュアルモードを有効にする際は注意してください。マニュアルモードで機体を旋回させると、以下の場合に姿勢が不安定になることがあります。安定した飛行を確保するため、注意して機体を操作してください。
  - 高速で機体を旋回させる場合。
  - 急降下やローリングをする場合。
  - 飛行速度が 8 m/s を超えるか、風速が 8 m/s を超える場合。

4.2 ステータス インジケーター

DJI Neo は上部に 1 つのステータスインジケーターを備えています。



ステータスインジケーターの説明

正常の状態		
·····	赤色と黄色と緑色が交互に点滅	電源がオンになり、自己診断テストを実行中
× 4 ·····	黄色に 4 回点滅	ウォームアップ中
·····	緑色にゆっくり点滅	測位が正常に機能している

© 2024 DJI All Rights Reserved.

·····	紫色にゆっくり点滅	機体がマニュアルモードになっている
警告の状態		
·····	赤色にゆっくり点滅	離陸不可（例：バッテリー残量低下など）[1]
·····	赤色にすばやく点滅	バッテリー残量が極度に低下
—	赤色点灯	重大なエラー
·····	赤色と黄色に交互に点滅	コンパスキャリブレーションが必要

[1] ステータスインジケーターがゆっくりと赤色点滅している間に DJI Neo が離陸できない場合は、DJI Fly の警告プロンプトを確認します。

4.3 Return-to-Home (RTH)

このセクションをよく読み、RTH (Return to Home) 時の機体の動作をよく理解してください。

機体を送信機と併用する場合、RTH がサポートされます。RTH 機能により、機体は最後に記録されたホームポイントまで自動的に飛行して戻ります。RTH は次の 3 つの方法のいずれかで起動します：ユーザーが積極的に RTH を起動したとき、機体のバッテリー残量が少ないとき、または送信機信号または動画伝送信号が失われたとき（フェールセーフ RTH が起動します）。機体がホームポイントを正常に記録し、測位システムが正常動作している状態で RTH 機能が発動された場合、機体は自動的に飛行して帰還しホームポイントに着陸します。

- ホームポイント：ホームポイントは、機体が強い GNSS 信号 26 を受信しているときに限り、離陸時に記録されます。ホームポイントが記録されると、DJI Fly またはゴーグルにプロンプトが表示されます。ユーザーの位置が変更された場合など、飛行中にホームポイントを更新する必要がある場合、DJI Fly アプリまたはゴーグルの設定でホームポイントを手動で更新できます。

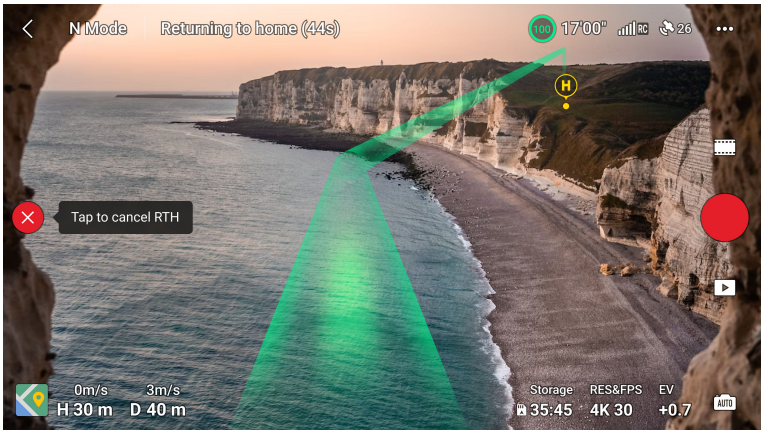
機体と送信機を併用する場合、RTH 中には、AR RTH ルートがカメラビューに表示され、帰還経路を確認して飛行の安全を確保します。カメラビューには、AR ホームポイントも表示されます。機体がホームポイント上空に到達すると、ジンバルカメラが自動的に下に向きます。機体が地表に近づくと、AR 機体シャドーがカメラビューに表示され、機体を正確に制御して希望する位置に着陸させることができます。

デフォルトで、AR ホームポイント、AR RTH ルート、機体の AR シャドーがカメラビューに表示されます。表示は、DJI Fly で変更できます。カメラビューに進み、 ••• > **安全** > **AR 設定**をタップします。

- AR RTH ルートはあくまで参考用です。飛行シナリオによっては実際の飛行ルートからずれる場合があります。RTH 中は、常に画面のライブビューに注意を払ってください。慎重に飛行してください。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

- RTH 中、デフォルトで、カメラが RTH ルートに向くように、機体はジンバルのチルトを自動調整します。カメラの向きを手動で調整すると、機体が自動的にジンバルのチルトを調整しなくなるため、AR RTH ルートが表示されなくなる可能性があります。



注記

⚠
- 測位システムに異常がある場合、機体はホームポイントに正常に戻れないことがあります。フェールセーフ RTH 中、測位システムに異常がある場合、機体は ATTI モードに入り、自動的に着陸することがあります。
- 機体が障害物に囲まれた環境（高い建物の近くや樹木の下など）を飛行している場合、ライブビューに表示されるホームポイントの位置が不正確になることがあります。慎重に飛行してください。
- 飛行の前には、その都度、適切な RTH 高度を設定してください。DJI Fly を起動して、RTH 高度を設定します。デフォルトの RTH 高度は 30 m です。
- GEO 区域は RTH に影響します。GEO 区域付近での飛行は避けてください。
- 風速が強すぎると、機体はホームポイントに戻ることができない場合があります。慎重に飛行してください。
- RTH 時、最大高度が現在の高度よりも低い高度に調整されていた場合、機体は最初に最大高度まで下降して、帰還します。
- RTH 高度は RTH 時には変更できません。
- RTH 中、送信機の信号が正常な場合、ピッチスティックは飛行速度のコントロールにのみ使用できます。方向と高度は制御できず、機体を左右に飛行させるようにコントロールすることもできません。ピッチスティックを倒し続けて加速すると、バ

© 2024 DJI All Rights Reserved.

ッテリーの消費が早くなります。ピッチスティックを押して、下に最後まで倒すと、機体にブレーキがかかり停止し、その場でホバリングし、RTH を終了します。ピッチスティックを放すと、機体を再びコントロールすることができます。

- ホームポイントが高度制限区域内で機体が区域外にある場合、機体が高度制限区域に達すると、機体は高度制限を下回る高度まで降下します。この高度は、設定されている RTH 高度よりも低い場合があります。慎重に飛行してください。
- RTH は、自動着陸中に起動することはできません。

発動方法

ユーザーによる能動的な RTH の発動

送信機の使用：飛行中に RTH を開始するには、送信機の RTH ボタンを長押しするか、または DJI Fly のカメラビューで左側に表示される をタップして、［RTH］アイコンを長押ししします。

モーションコントローラーの使用：モーションコントローラーのモードボタンを長押しすると、RTH が開始されます。機体は、最終更新されたホームポイントまで飛行して帰還します。RTH 中、ロックボタンを 1 回押すと、RTH をキャンセルします RTH を終了すると、機体を制御できるようになります。

機体のバッテリー残量低下

飛行中、バッテリー残量が低下し、ホームポイントまでしか飛行できなくなると、警告プロンプトが DJI Fly またはゴーグルに表示されます。RTH を確認するか、またはカウントダウンが終了する前にアクションを起こさない場合、機体は自動的にローバッテリー RTH を開始します。

ローバッテリーの RTH プロンプトをキャンセルし、機体の飛行を続けた場合、現在のバッテリー残量では、現在の機体の高度から下降させることしかできない場合、自動で着陸します。

送信機を使用して、着陸プロセス中の機体の水平方向の動きを制御することができます。できるだけ早く着陸に適した場所に機体を飛行してください。

⚠
- バッテリーの残量が低すぎて、帰還に必要な電力がない場合は、できるだけ早く機体を着陸させてください。機体を着陸させないと、機体はバッテリーが完全に消耗した後に墜落します。
- 自動着陸中は、スロットルスティックを上に押し上げ続けないでください。これを行うと、機体はバッテリーが完全に消耗した後に墜落します。

送信機または動画伝送信号の消失

送信機信号または動画伝送信号が失われた場合、信号消失動作が RTH に設定されていれば、機体は自動的にフェールセーフ RTH を開始します。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

機体は元の飛行ルートに沿って 20 m 後方に飛行し、次に RTH 手順を実行します。元の飛行ルートに沿って後方に飛行しているときに信号が回復した場合、機体は直接 RTH 手順を実行します。

RTH 手順

RTH が起動すると、機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。

- RTH 距離が 20 m より遠い場合、RTH 高度まで上昇し、ホームポイントに戻ります。現在の高度が RTH 高度より高い場合、機体は現在の高度でホームポイントに向かいます。
- RTH 距離が 5 m を超え 20 m 未満の場合、機体は向きを調整し、現在の高度でホームポイントに真っ直ぐ飛行します。
- RTH 距離が 5 m 未満の場合、機体は速やかに着陸します。

4.4 自動着陸

状況によっては、着陸保護機能がサポートされ、DJI Neo が自動的に着陸することがあります。

⚠ • バッテリー残量が著しく低下したことにより DJI Neo が着陸するのを、継続的に妨げないでください。妨げると、バッテリーが損傷したり、DJI Neo が墜落したりします。

発動方法

次のシーンでは、DJI Neo は自動的に着陸します：

- RTH がトリガーされた後、DJI Neo がホームポイント上空に到達したとき。
- DJI Neo のバッテリー残量が著しく低下したとき。
- 手のひら制御およびモバイルアプリ制御では、測位に失敗するか、または DJI Neo が衝突を検出したが、墜落しないとき。

着陸保護

着陸保護機能は自動着陸中に有効になります。

DJI Neo の具体的なアクションは、次のとおりです。

- 地面が着陸に適していると判断された場合には、DJI Neo は直接着陸します。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

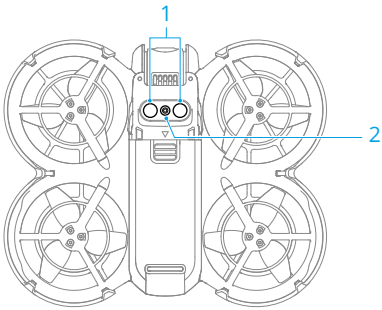
- 地面が着陸に適していないと判断された場合には、DJI Neo はその場でホバリングして、パイロットの確認を待ちます。手のひら着陸を行うことも、手動で DJI Neo を着陸させることもできます。
- DJI Neo が地上環境が着陸に適しているかどうかを判断できなかった場合、DJI Neo が地上から 0.3 m まで降下すると、DJI Fly またはゴーグルは着陸プロンプトを表示します。着陸プロンプトを確認すると、DJI Neo が着陸します。手のひら着陸を行うことも、手動で DJI Neo を着陸させることもできます。

- 着陸保護は、着陸環境を判断する補助に過ぎません。安全確保のため、着陸時には周辺環境に十分に注意してください。
- 次の状況では、着陸保護を使用できず、DJI Neo が不適切な地面に直接着陸する可能性があります：
  - 単色、反射、低照度の表面、明確な構造がない広い面積の表面、または滑らかなセラミックタイル、光量が不十分な車庫の床面、風になびく草のような動的地表面の上を飛行している場合。
  - 大きな岩などの明確な構造がない障害物がある地表面、盛り上がったタイルなどの反射面や単色の（全体が一色の）表面の上を飛行している場合。
  - 送電線や木の枝などの小さい障害物や細かい障害物の上を飛行している場合。
  - 刈り込まれた平らな低木、平らな樹木の上、半球状の地面など、平らな地面に似た表面の上を飛行している場合。
- 次のような場合、誤って着陸保護機能が作動し、DJI Neo が着陸できないことがあります。手のひら着陸を行うことも、手動で DJI Neo を着陸させることもできます。
  - 濡れた地面や水たまりのある場所など、ビジョンシステムが水と混同する可能性のある表面の上を飛行している場合。
  - 平らな表面の上を飛んでいるが、近くにはっきりとした構造の表面（斜面や階段）がある場合。

4.5 ビジョンシステムおよび赤外線検知システム

DJI Neo には、赤外線検知システムと下方ビジョンシステムの両方が搭載されています。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.



1. 赤外線検知システム
2. 下方ビジョンシステム

ビジョンシステムと赤外線検知システムの有効動作環境は次のとおりです。

- センサー下の表面が、識別可能な模様のある拡散反射面、拡散反射率 > 20%（コンクリート舗装など）であること。
- 照度条件が適切であること（15 ルクスを超え、10,000 ルクス未満、通常の室内照明条件）。

⚠
- 飛行環境に注意してください。ビジョンシステムおよび赤外線検知システムは、特定のシナリオでのみ機能し、人による操作と判断に取って代わることはできません。飛行中は、常に周囲の環境と、DJI Fly またはゴーグルに表示される警告プロンプトに注意を払い、責任を持って DJI Neo の操作にあたってください。
- 平坦な表面と鮮明な構造のある広々とした環境でビジョンシステムを使用する場合、ビジョンシステムの最適な測位高度範囲は 0.5～10 m です。この範囲から外れて飛行するとビジョンシステムの測位性能が低下する場合があります。慎重に飛行してください。
- 水面付近を飛行している場合、下方ビジョンシステムが適切に機能しないことがあります。そのため、着陸時に、下に水面がある場合、DJI Neo が能動的に回避できない場合があります。常に飛行を制御し続け、周囲の環境に基づいて合理的な判断を下し、下方ビジョンシステムに過度に依存しないようにしてください。
- DJI Neo の飛行速度が速すぎたり、高度が低すぎたりすると、下方ビジョンシステムと赤外線感知システムが正しく機能しない場合があります。
- ビジョンシステムは、はっきりとしたパターンの変化がない地表の周辺、または明るすぎたり、暗すぎたりする環境では、適切に機能しません。ビジョンシステムは、次のような状況では適切に機能しません。
  - モノクロの地表面（黒一色、白色、赤色、緑色の表面など）付近を飛行している場合。
  - 反射率の高い表面（氷、ガラス、単色のセラミックタイルなど）上を飛行している場合。
  - 水面または透明な地表面付近を飛行している場合。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

- 動く面または物体の周辺を飛行している場合。
- 明るさが頻繁に、または急激に変わるエリアを飛行している場合。
- 非常に暗い（15 ルクス未満）または非常に明るい（10,000 ルクス超）地表面付近を飛行している場合。
- 赤外線を強力に反射または吸収する地表面（鏡など）付近を飛行している場合。
- はっきりした模様や構造のない地表面付近を飛行する場合。
- 同じ模様や構造が繰り返し現れる（同じデザインのタイルなど）地表面付近を飛行している場合。
- 表面積の小さい障害物付近を飛行している場合（木枝や電線など）。

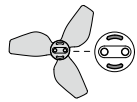
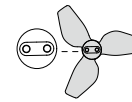
- センサーは常にきれいな状態に保ってください。センサー表面を傷つけたり、改造したりしないでください。ほこりや湿気のある環境でデバイスを使用しないでください。
- 雨や霧、または視界が 100 m 未満の場合は飛行しないでください。
- 赤外線検知システムとビジョンシステムを遮断しないでください。
- 離陸前に、以下の項目を必ず確認してください。
  - 赤外線検知システムやビジョンシステムのガラスに、ステッカーやその他の障害物がないことを確認します。
  - ビジョンシステムおよび赤外線検知システムのガラスに汚れや埃、水が付いている場合は、柔らかい布で拭き取ります。アルコールを含む洗浄剤は使用しないでください。
  - 赤外線検知システムおよびビジョンシステムのレンズに傷などがある場合は、DJI サポートにお問い合わせください。

4.6 プロペラとプロペラガード

DJI Neo には取り外し可能なプロペラガードが付属しており、衝突によるプロペラへのダメージを軽減します。プロペラの取り付け・取り外しを行う前に、DJI Neo 上部のプロペラガードを外す必要があります。

DJI Neo のパッケージには予備のプロペラが同梱されています。2 種類のプロペラのパッケージには、それぞれ A と B のラベルが貼られており、取り付け位置もイラストで示されています。プロペラ A の中央にはマークがありますが、プロペラ B にはマークがありません。指示に従ってプロペラとモーターが合致していることを必ず確認してください。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

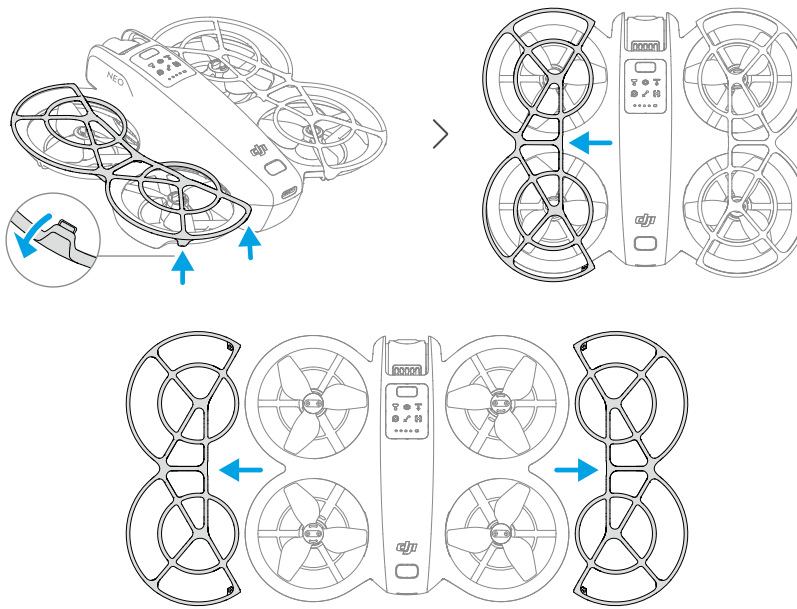
プロペラ	マークあり	マークなし
イラスト		
取り付け位置	マークありのアームのモーターに取り付ける	マークなしのアームのモーターに取り付ける

取り外し、取り付け

プロペラガード

DJI Neo の電源が切れていることを確認してください。以下の手順に従ってプロペラガードの取り外しを行います。

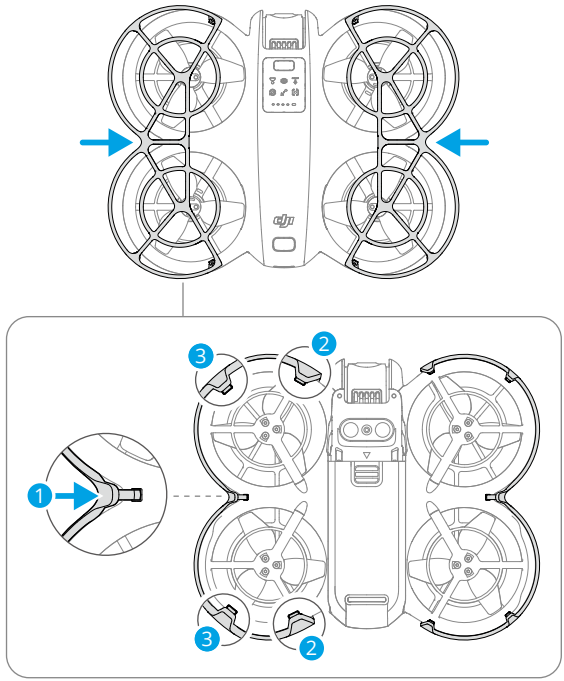
1. プロペラガードのフックを解除します。
2. プロペラガードを中央から押します。
3. 反対側のプロペラガードも同様に取り外します



以下の手順に従ってプロペラガードを取り付けてください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

1. 中央のフックが所定の位置にカチッと収まるまで、プロペラガードを DJI Neo の本体に向かって押します。残りの 4 つのフックを上から DJI Neo の穴に押し込んで固定します。



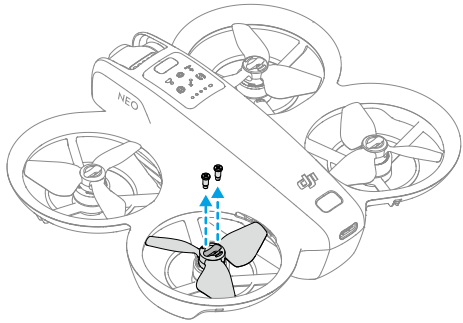
2. 反対側のプロペラガードも同様に取り付けます

プロペラ

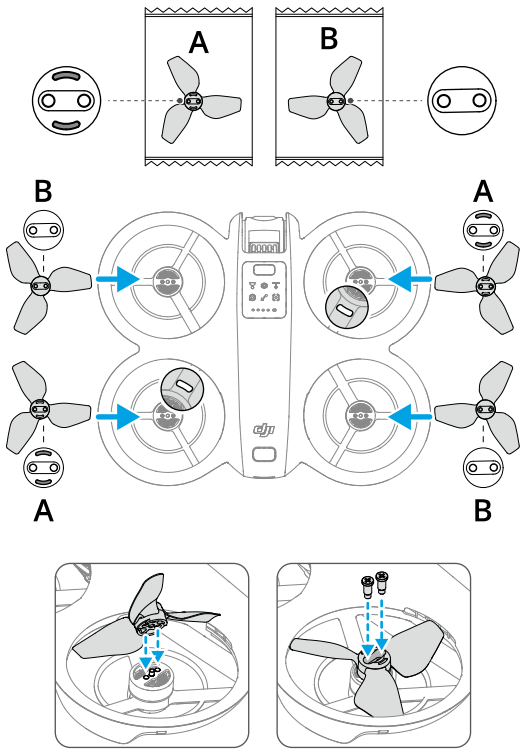
プロペラの取り付けと取り外しには、DJI Neo のパッケージに同梱されているドライバーを使用します。プロペラの取り付け・取り外しを行う前に、プロペラガードを取り外す必要があります。

1. ドライバーを使用して、プロペラをモーターから取り外します。

© 2024 DJI All Rights Reserved.



2. マークありのプロペラはマークありのアームのモーターに、マークなしのプロペラはマークなしのアームのモーターに取り付けてください。プロペラの固定には、パッケージに同梱されているねじを使用してください。必ずねじを締めてください。



3. プロペラを取り付けた後、プロペラガードを再度取り付けます。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

注記

- ⚠ • 損傷を防ぐため、プロペラガードを無理に取り付けたり取り外したりしないでください。
- プロペラの取り付け・取り外しには、DJI Neo のパッケージに同梱されたドライバーのみを使用してください。他のドライバーを使用すると、ねじが損傷する恐れがあります。
- ドライバーを使用して DJI Neo を分解しないでください。
- ねじを締めるときは、ねじをまっすぐ垂直にして締めてください。ねじは、取り付け面に対して斜めに取り付けないでください。取り付け後、ねじが平らになっているかどうかを確認し、プロペラを回転させて異常な抵抗がないかどうかを確認します。
- プロペラのブレードの先端は鋭利です。けがやプロペラの変形を避けるために、注意して扱ってください
- 飛行前に、毎回プロペラとモーターが正しくしっかりと取り付けられていることを確認してください。飛行時間 15 時間（約 60 回分のフライト）ごとに、プロペラのねじの締め付けが十分であるかどうかを確認してください。
- プロペラが破損している場合は、対応するモーターのプロペラとねじを取り外して廃棄します。
- DJI 公式のプロペラのみを使用してください。複数の種類のプロペラを一緒に使用しないでください。
- プロペラは消耗品です。必要に応じて追加のプロペラを購入してください。
- 各フライト前に、すべてのプロペラが良好な状態であり、清潔であること（異物が付着していないこと）を確認してください。古くなったり、欠けたり、損傷したプロペラは使用しないでください。プロペラに異物が付着している場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。
- 怪我をしないよう、回転中のプロペラやモーターから離れてください。
- プロペラの損傷を避けるため、輸送や保管の際には DJI Neo を正しく梱包してください。プロペラをひねったり折り曲げたりしないでください。プロペラが破損している場合、飛行性能が影響を受ける可能性があります。
- モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転することを確認してください。モーターが止まって自由に回転しない場合は、直ちに DJI Neo を着陸させてください。
- モーターを改造しないでください。
- 飛行後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体の一部が接触したりしないようにしてください。
- モーターまたは DJI Neo の通気口を塞がないでください。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

- DJI Neo の電源を入れた時、ESC の動作音に異常がないことを確認してください。

4.7 インテリジェント フライトバッテリー

DJI Neo は、DJI Neo インテリジェント フライトバッテリー、モデル BWX521-1435-7.3 を使用します。*

* バッテリーの化学システムは LiNiMnCoO2 です。

注記

⚠ • バッテリーを使用する前に、このマニュアル、『安全ガイドライン』、バッテリーステッカーに記載されている指示を読み、厳密に従ってください。ユーザーはすべての操作と使用に対する責任を負うものとします。

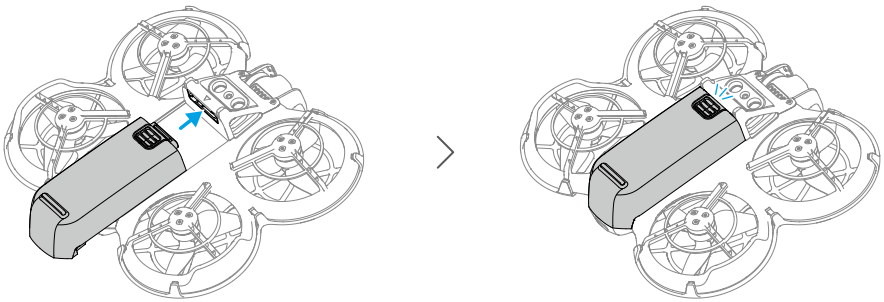
1. 飛行直後にはインテリジェント フライトバッテリーが過熱していることがあります。すぐには充電しないでください。バッテリーを許容される充電環境温度まで放熱してから、再充電してください。
2. 損傷を防ぐために、バッテリーの温度が 5°～40°C の場合にのみ充電されます。推奨する充電温度範囲は 22°C～28°C です。理想的な温度範囲で充電すると、バッテリーの寿命を延ばすことができます。充電中にバッテリーセルの温度が 55°C を超えると、充電は自動的に停止します。
3. 低温注意：
   - バッテリーは極低温環境（-10°C より低い）では使用できません。
   - 低温環境（-10°～5°C）で飛行すると、バッテリー容量が著しく減少します。離陸の前には、必ずバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。バッテリーを暖める場合、機体をその場でホバリングさせます。
   - 低温環境で飛行する場合は、離陸前にバッテリーを最低 10°C まで暖めることをお勧めします。バッテリーを温める理想的な温度は 20°C 以上です。
   - 低温環境でバッテリー容量が減少すると、機体の風圧抵抗の性能が低下するため、細心の注意が必要です。慎重に飛行してください。
   - 低温環境で標高の高いところを飛行する場合は、特に注意してください。
4. フル充電されたバッテリーは、一定時間使用しないと自動的に放電します。放電の過程でバッテリーから熱が放出されますが、これは正常です。
5. バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも 3 ヵ月に 1 回はバッテリーを完全に充電してください。バッテリーを長期間使用しないと、バッテリーの性能に影響が出たり、バッテリーが永久的な損傷を引き起こす場合があります。バッテリーが 3 ヶ月以上充放電されていない場合、バッテリーは保証の対象外となります。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

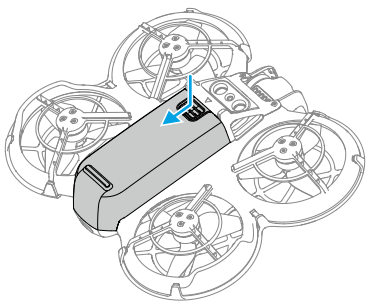
6. 安全上の理由から、輸送中はバッテリーの残量を低い状態にしておいてください。輸送前に、バッテリーを 30%以下に放電しておくことをお勧めします。

バッテリーの挿入および取り外し

インテリジェント フライトバッテリーを下図のように挿入します。バッテリーのラッチがしっかりと固定されていることを示す「カチッ」という音がするまで、バッテリーを完全に挿入してください。



バッテリーラッチの模様がある部分を押し、バッテリーを DJI Neo の後方に押して取り外します。



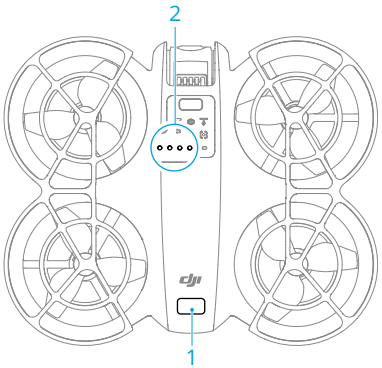
⚠
- デバイスの電源が入っているときは、バッテリーを挿入したり取り外したりしないでください。
- 「カチッ」という音でバッテリーが挿入されていることを確認します。確認をしないと、離陸後にバッテリーと DJI Neo が接触不良を起こし、危険を招く恐れがあります。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

バッテリーの使用

バッテリー残量の確認

電源ボタンを 1 回押すと、現在のバッテリー残量を確認します。



1. 電源ボタン
2. バッテリー残量 LED

バッテリー残量 LED は、放電中にバッテリーの残量を表示します。LED のステータスは以下のように定義されます：

● LED が点灯

✺ LED 点滅

◎ LED が消灯

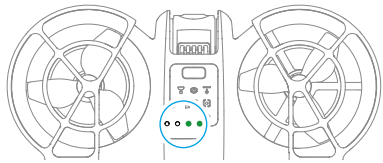
点滅パターン	バッテリー残量
● ● ● ●	88～100%
● ● ● ✺	76～87%
● ● ● ◎	63～75%
● ● ✺ ◎	51～62%
● ● ◎ ◎	38～50%
● ✺ ◎ ◎	26～37%
● ◎ ◎ ◎	13～25%
✺ ◎ ◎ ◎	0～12%

© 2024 DJI All Rights Reserved.

電源のオン／オフ

電源ボタンを押した後、長押しすると、DJI Neo の電源がオンまたはオフになります。電源を入れると、バッテリー残量 LED にバッテリー残量が表示されます。DJI Neo の電源が切れると、バッテリー残量 LED が消灯します。

下図のように、2 つの LED が同時に点滅ししている場合は、バッテリーが故障していることを示しています。デバイスからバッテリーを取り外し、バッテリーを再度挿入して、しっかりと取り付けられていることを確認してください。



ファームウェアの更新

更新の必要なバッテリーがさらにある場合、DJI Neo に挿入して電源を入れてください。DJI Fly にバッテリーファームウェア更新のプロンプトが表示されます。離陸の前には、必ずバッテリーファームウェアが更新されていることを確認してください。下表は、更新プロセス中のバッテリー情報と、対応する LED 点滅パターンを示しています。

点滅パターン	情報
◎ ● ☼ ◎	バッテリーファームウェアの更新中
◎ ● ● ◎	ファームウェア更新に失敗

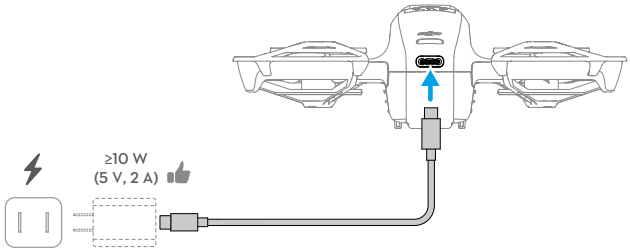
⚠ 更新に失敗した場合は、バッテリーを DJI Neo に挿入してデバイスの電源を入れ直し、DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用してファームウェア更新を再試行します。詳細については、付録のファームウェア更新セクションを参照してください。

バッテリーの充電

各使用の前には、必ずバッテリーを完全に充電してください。DJI Neo 2WAY 充電ハブ、DJI 65W ポータブル充電器、またはその他の USB Power Delivery 充電器など、DJI が提供する充電器を使用することをお勧めします。DJI Neo 2WAY 充電ハブと DJI 65W ポータブル充電器は、どちらもオプションのアクセサリーです。詳細については、公式 DJI オンラインストアをご覧ください。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

充電器の使用



1. バッテリーが DJI Neo にしっかりと装着され、電源がオフになっていることを確認してください。
2. 充電器を AC 電源（100～240 V、50/60 Hz。必要であれば電源アダプターを使用）に接続します。
3. USB-C ケーブルを使用して、充電器を DJI Neo の充電ポートに接続します。
4. 充電中、バッテリー残量 LED は現在のバッテリー残量を表示します。
5. バッテリー残量 LED がすべて緑色に点灯したら、バッテリーの充電は完了です。バッテリーが完全に充電されたら、充電器を DJI Neo から取り外します。

⚠
- デバイスの電源が入っているとバッテリーを充電できません。
- DJI Neo の USB-C ポートの最大充電出力は 15 W です。

下の表は、充電中のバッテリー残量を示しています。

点滅パターン	バッテリー残量
● ● ◎ ◎	0～50%
● ● ● ◎	51～75%
● ● ● ●	76～99%
● ● ● ●	100%

- 4 つの LED が同時に点滅する場合、バッテリーが損傷していることを示します。

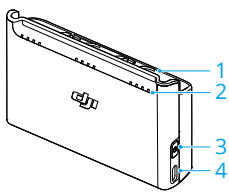
充電ハブの使用

USB 充電器と併用することで、DJI Neo 2WAY 充電ハブは、最大 3 個までの DJI Neo インテリジェント フライトバッテリーを充電できます。DJI 65W ポータブル充電器と併用すると、充電ハブはインテリジェントフライト バッテリー 3 個を約 60 分で完全に充電できます。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

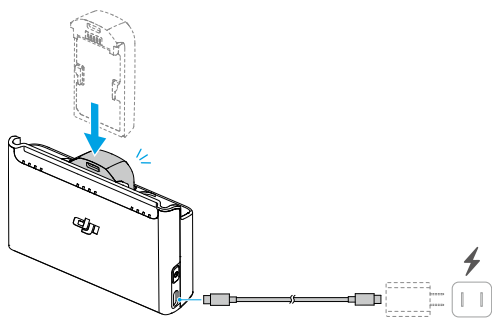
インテリジェント フライトバッテリーをハブに挿入すると、充電ハブをパワーバンクとして使用でき、外部デバイスを USB ポートに接続してデバイスを充電できます。詳細については、『*DJI Neo 2WAY* 充電ハブのユーザーガイド』を参照してください。

- 充電ハブに電力を供給するには、DJI 65W ポータブル充電器またはその他の PD 規格対応の USB 充電器を使用することをお勧めします。
- 環境温度は充電速度に影響を及ぼします。25°Cの換気の良い環境では、充電速度がより速くなります。
- 充電ハブは、BWX521-1435-7.3 インテリジェント フライトバッテリーにのみ互換性があります。それ以外のバッテリーモデルと一緒に充電ハブを使用しないでください。
- 本充電ハブを使用する際は、平らで安定した面に置いてください。火災の危険を防ぐために、本機器が適切に絶縁されていることを確認してください。
- バッテリーポートの金属端子には、触れないでください。金属端子の汚れが目立つ場合は、きれいな乾いた布で拭いてください。
- バッテリー残量の少ないバッテリーは適時に充電してください。充電ハブにバッテリーを保管することをお勧めします。



1. バッテリーポート
2. ステータス LED（LED 1 から LED 4 まで、右から左へ配列）
3. 機能ボタン
4. USB-C ポート

充電方法



1. 充電ハブのバッテリーポートに、カチッと音がするまでバッテリーを挿入します。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

2. USB 充電器を使用して、充電ハブを電源コンセント（100～240 V、50/60 Hz）に接続します。ステータス LED は、充電中のバッテリーの状態を表示します。点滅パターンの詳細については、「ステータス LED の説明」を参照してください。

   充電方法は充電器の電力によって異なります。詳細については下の表を参照してください。

10 W ≤ 充電電力 <30 W	バッテリー残量が多いバッテリーから少ないバッテリーへと順番に充電します。
30 W ≤ 充電電力 <45 W	2 つのバッテリーを同時に充電します。まず、バッテリー残量が少ない方のバッテリーを多い方のバッテリーと同じレベルまで充電し、次に 2 つのバッテリーを同時に充電します。
充電電力 ≥45 W	3 つのバッテリーを同時に充電します。まず、バッテリー残量が少ない 2 つのバッテリーを最もバッテリー残量が多いバッテリーと同じレベルまで充電し、次に 3 つのバッテリーを同時に充電します。

3. バッテリーの充電後、充電ハブにバッテリーを保管できます。

ステータス LED の説明

充電ステータス

点滅パターン	説明
ステータス LED（一列）が連続して素早く点滅	対応するバッテリーが、USB PD 充電器を使用して充電されています。
ステータス LED（一列）が連続してゆっくりと点滅	対応するバッテリーが、通常の充電器を使用して充電されています。
ステータス LED（一列）が点灯	対応するバッテリーが、完全に充電されました。
すべてのステータス LED が順番に点滅	バッテリーが一つも挿入されていません。

バッテリー残量

各バッテリーポートには、LED1 から LED4（右から左）の一列に並んだステータス LED があります。機能ボタンを 1 回押して、バッテリー残量を確認することができます。バッテリー残量 LED ステータスは、DJI Neo のステータスと同じです。詳細については、バッテリーの使用のセクションで、DJI Neo のバッテリー残量 LED のステータスおよび説明を参照してください。

異常ステータス

© 2024 DJI All Rights Reserved.

バッテリー異常の LED ステータスは DJI Neo と同じです。詳細については、バッテリー保護メカニズムのセクションを参照してください。

バッテリー保護メカニズム

バッテリー残量 LED は、異常な充電状態に関するバッテリー保護通知を表示します。

LED	点滅パターン	状態
◎ ◉ ◎ ◎	LED2 が毎秒 2 回点滅	過電流検知
◎ ◉ ◎ ◎	LED2 が毎秒 3 回点滅	短絡検知
◎ ◎ ◉ ◎	LED3 が毎秒 2 回点滅	過充電検知
◎ ◎ ◉ ◎	LED3 が毎秒 3 回点滅	充電器の過電圧検知
◎ ◎ ◎ ◉	LED4 が毎秒 2 回点滅	充電温度が低すぎる
◎ ◎ ◎ ◉	LED4 が毎秒 3 回点滅	充電温度が高すぎる

バッテリー保護メカニズムが有効になった場合、充電を再開するには充電器のプラグを抜き、その後、再び差し込みます。充電温度範囲が異常な場合は、正常に戻るまでお待ちください。バッテリーは自動的に充電を再開します。その際に充電器のプラグを抜き差しする必要はありません。

4.8 ジンバルとカメラ

カメラに関する注記

⚠
- センサーの破損を避けるため、レーザーショーのようなレーザー光線のある環境にカメラのレンズをさらしたり、晴れた日の太陽のような強い光源に長時間カメラを向けたりしないでください。
- 使用中と保管中、温度と湿度がカメラに適したものであることを確認してください。
- レンズクリーナーを使用してレンズを清掃し、損傷や画質の低下を防いでください。
- カメラの通気口を塞がないでください。熱が発生して、負傷したり、機器が損傷したりするおそれがあります。
- アスペクト比 4:3 のゴーグルを使用している場合、DJI Neo で録画された映像は安定化されませんが、Gyroflow によるオフライン安定化機能をサポートしています。

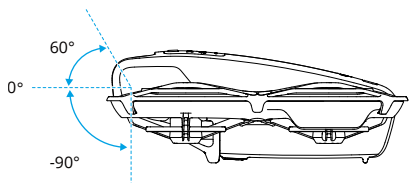
© 2024 DJI All Rights Reserved.

ジンバルに関する注記

- ⚠ • デバイスの電源を入れる前に、ジンバル プロテクターを取り外してください。デバイスを使用しないときは、ジンバル プロテクターを取り付けてください。
- 離陸する前に、ジンバル上にステッカーが貼られていないことや障害物がないことを確認してください。ジンバルを保護するため、平らな表面から離陸し、ジンバルに干渉する他の物体がないことを確認してください。デバイスの電源を入れた状態で、ジンバルを押したり叩いたりしないでください。
- 衝突や衝撃によりジンバルの精密部品が損傷するおそれがあります。損傷があると、ジンバルが異常な動きをすることがあります。ジンバルを損傷から必ず保護してください。
- ジンバル（特にジンバルのモーター）に埃や砂が付着しないようにしてください。
- DJI Neo が平らではない地面や草地に置かれている、または衝突のような外からの過剰な力をジンバルが受けている場合、ジンバルが他の物体によって妨げられると、ジンバルモーターが保護モードになることがあります。ジンバルが回復するまで待つか、デバイスを再起動してください。
- デバイスの電源をオンにした後、ジンバルに外力をかけないでください。
- ジンバルに公式アクセサリー以外の余計なペイロードを載せないでください。ジンバル動作の不具合や、さらにはモーターの損傷を引き起こすおそれがあります。
- 濃霧や雲の中を飛行すると、ジンバルが湿気を帯びて一時的に不具合が生じることがあります。ジンバルが乾くと機能は正常に戻ります。
- 強風の場合、録画中にジンバルが振動することがあります。

ジンバル角

ジンバルの制御チルト範囲は-90˚～+60˚です。ジンバルのチルトを制御するには、送信機を使用します。また、DJI Fly のカメラビューからも操作できます。



ジンバル操作モード

ジンバルモードはフライトモードに応じて自動的に切り替わります。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

ノーマル／スポーツ／シネモード：ジンバルは姿勢安定化モードになっています。ジンバルのチルト角は水平面に対して安定した状態で、安定した映像を撮影するのに適しています。

マニュアルモード：ジンバルはロックモードになっています。ジンバルのチルト角は DJI Neo 本体に対して安定した状態です。

4.9 写真と動画の保存とエクスポート

収納

機体には内部ストレージが搭載されています。写真と動画のデータを内部ストレージに保存できます。

⚠
- 使用する前にカメラ設定を確認し、正しく設定されていることを確認してください。
- 大切な写真や動画を撮影する前に、いくつかの画像を試し撮りし、カメラが正しく動作するか確認してください。
- デバイスの電源を正しく切ってください。正しく電源を切らなかった場合、カメラのパラメーターが正常に保存されず、記録された動画に影響がある場合があります。機械が読み取れない方式で記録された画像や動画による損失に対し、DJI は一切責任を負いません。

エクスポート

- 映像をモバイル端末にエクスポートするには、クイック転送を使用してください。詳しくは、次のセクションを参照してください。
- データ ケーブルを使用して機体をパソコンに接続し、機体の内部ストレージに映像をエクスポートします。エクスポート処理中に機体の電源を入れる必要はありません。

4.10 クイック転送

DJI Neo は Wi-Fi 経由でスマートフォンに直接接続できるため、DJI Neo からスマートフォンに写真や動画をダウンロードできます。

モバイルアプリ制御では、スマートフォンを DJI Neo に接続した後、［アルバム］ビューに移動して、クイック転送モードに入ります。

DJI Neo がスマートフォンに接続されていない場合は、DJI Fly のホーム画面でクイック転送または Wi-Fi デバイスカードをタップして、クイック転送モードに入ることができます。スマートフォンで DJI Fly のアルバムに移動し、右上隅の ⚡ をタップして、クイック転送モードに入ることもできます。

 © 2024 DJI All Rights Reserved.

初めてスマートフォンを DJI Neo に接続する時、DJI Neo の電源ボタンを長押しして、接続を確定してください。

⚠
- 最大ダウンロードレートは、5.8 GHz 周波数が法律および規制によって許可されている国や地域で、5.8 GHz 周波数帯域と Wi-Fi 接続に対応したデバイスを、干渉や障害物のない環境で使用する場合にのみ実現できます。5.8 GHz が現地の規制で許可されていない場合（日本など）、ユーザーのモバイル端末は 5.8 GHz の周波数帯域に対応しないか、強い干渉を受ける可能性があります。このような状況では、クイック転送は 2.4 GHz の周波数帯域を使用して最大ダウンロードレートが 6 MB/秒に低下します。
- クイック転送を使用する場合、接続するためにモバイル端末の設定ページで Wi-Fi パスワードを入力する必要はありません。DJI Fly を起動すると、デバイスに接続するためのプロンプトが表示されます。
- 干渉や障害物のない環境でクイック転送を使用し、無線ルーター、Bluetooth スピーカー、ヘッドホンなどの干渉源に近づかないでください。

- クイック転送モードでアルバムを表示しているとき、DJI Neo の温度が一定以上になると、自動的に ECO モードが有効になります。アプリに表示されたプロンプトに注意してください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

DJI RC-N3

© 2024 DJI All Rights Reserved.

5 DJI RC-N3

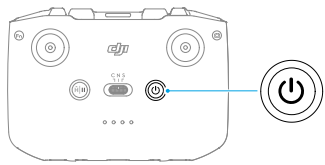
DJI RC-N3 は収納式モバイルデバイスホルダーを装備し、DJI Fly アプリを実行しながらモバイルデバイスを安定して保持することができます。

5.1 操作

電源のオン／オフ

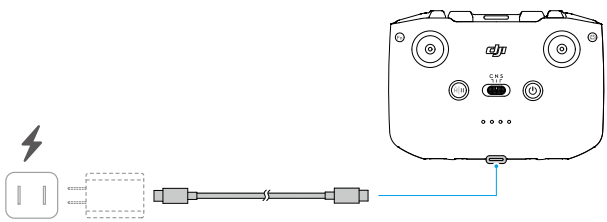
電源ボタンを 1 回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。

1 回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。



バッテリーの充電

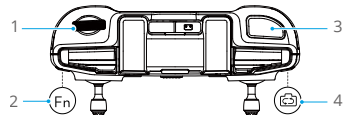
充電器を送信機の USB-C ポートに接続します。



⚠
- 各フライトの前に送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。
- バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも 3 ヶ月に 1 回はバッテリーを完全に充電してください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

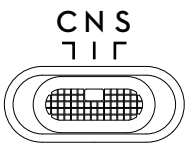
ジンバル＆カメラの操作



1. **ジンバルダイヤル：**ジンバルのチルトを制御します。
2. **カスタムボタン：**1 回押すと、ジンバルを再センタリングし、またはデフォルトでジンバルを下方に向けます。
3. **シャッター／録画ボタン：**1 回押すと、写真を撮影する、または録画を開始／停止します。
4. **静止画／動画ボタン：**1 回押すと写真モードと動画モードを切り替えます。

フライトモードスイッチ

このスイッチを切り替えて、目的のフライトモードを選択します。

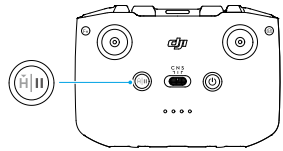


位置	フライトモード
S	スポーツモード
N	ノーマルモード
C	シネモード

飛行一時停止／RTH ボタン

一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。

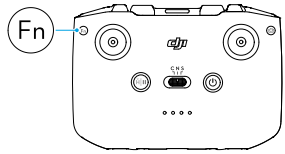
送信機からビープ音が鳴り、RTH が開始するまで、ボタンを長押しします。機体は最後に記録されたホームポイントへ戻ります。再度ボタンを押すと、RTH をキャンセルし機体を制御できるようになります。



カスタムボタン

カスタムボタンを 1 回押すと、1 回押すと、ジンバルを再センタリングし、またはデフォルトでジンバルを下方に向けます。機能を設定するには、DJI Fly のカメラビューに移動し、 ••• > **制御 > ボタンのカスタマイズ**をタップします。

© 2024 DJI All Rights Reserved.



5.2 バッテリー残量 LED

点滅パターン	バッテリー残量
● ● ● ●	76～100%
● ● ● ◎	51～75%
● ● ◎ ◎	26～50%
● ◎ ◎ ◎	0～25%

5.3 送信機のアラート

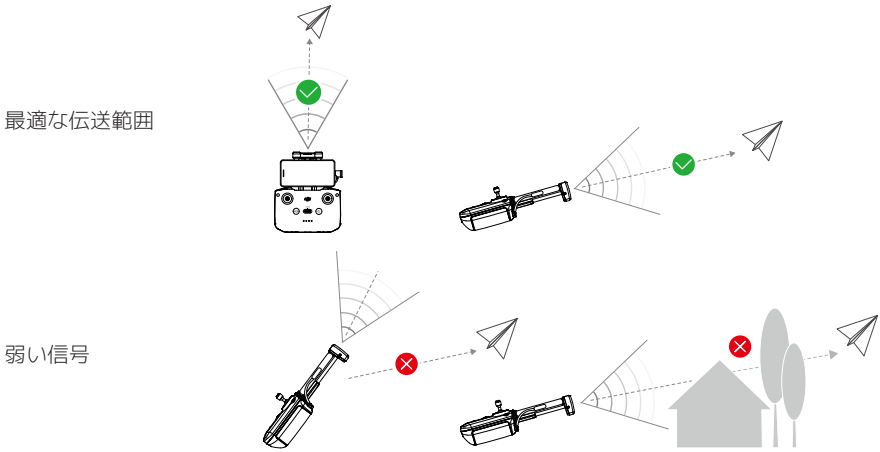
送信機は RTH 中にアラート音を鳴らします、これを止めることはできません。送信機は、送信機のバッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。電源ボタンを押すと、バッテリー残量低下のアラート音はキャンセルできます。バッテリー残量が極度に低くなると、アラート音はキャンセルできません。

送信機の電源が入っている状態で、機体またはモバイル機器の DJI Fly アプリに接続せずに一定時間操作しないと、アラート音が鳴ります。アラート音が止まると、送信機は自動的に電源がオフになります。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押すと、キャンセルされます。

5.4 最適な伝送範囲

機体と送信機間の信号は、アンテナと機体の位置関係が下図に示すような状態になっているときに最も信頼性が高くなります。信号が弱い場合は、送信機の方向設定またはアンテナの位置を調整するか、機体を送信機に近づけてください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.



⚠
- 送信機と同じ周波数で動作する他のワイヤレス端末を使用しないでください。送信機が信号干渉を受ける場合があります。
- 飛行中において送信信号が弱い場合、DJI Fly にプロンプトが表示されます。姿勢インジケーターの表示に従って、送信機の向きを調整して、機体が最適な伝送範囲内にあることを確認してください。

5.5 送信機のリンク

送信機をコンボとして購入した場合は、送信機はすでに機体にリンクされています。別々に購入した場合には以下の手順に従って機器をリンクさせてください。

1. 機体と送信機の電源を入れます。
2. DJI Fly を開始します。
3. カメラビューで、•••> **制御（コントロール）** > **機体の再ペアリング**をタップします。リンク中、送信機はビープ音を鳴らします。
4. 機体の電源ボタンを 4 秒以上押し続けます。リンクの準備ができると、機体は 1 回ビープ音を鳴らし、バッテリー残量 LED が連続して点滅します。リンクが正常に行われたら、送信機がビープ音を 2 回鳴らします。

- リンクは、送信機が機体から 0.5 m 以内にある状態で行ってください。
- 新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。
- または、以下の方法でリンクさせることもできます。DJI Fly のホーム画面で、**接続ガイド**をタップし、機体モードを選択し、**RC のみで接続**を選択します。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

付録

© 2024 DJI All Rights Reserved.

6 付録

6.1 仕様

仕様については、以下のウェブサイトを参照してください。

https://www.dji.com/neo/specs

6.2 互換性

互換性のある製品については、次のウェブサイトをご覧ください。

https://www.dji.com/neo/faq

6.3 ファームウェア更新

デバイスを更新するには、DJI Fly または DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用します。

DJI Fly の使用

モバイルアプリ制御を使用する場合は、DJI Fly のホーム画面のプロンプトに従ってファームウェアを更新してください。ファームウェア更新には、インターネット接続が必要となります。

送信機を使用する場合は、機体と送信機を接続し、DJI Fly を実行します。新しいファームウェア更新が利用できる場合、通知が表示されます。画面上の指示に従って、アップデートを開始します。送信機が機体にリンクされていない場合はファームウェアを更新できませんのでご注意ください。ファームウェア更新には、インターネット接続が必要となります。

没入型モーションコントロールを使用する場合は、機体、ゴーグル、リモートコントロール機器の電源を入れ、すべての機器がリンクしていることを確認します。ゴーグルの USB-C ポートをスマートフォンに接続します。DJI Fly を起動し、プロンプトに従って更新を行います。ファームウェア更新には、インターネット接続が必要となります。

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）の使用

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用して、すべてのデバイスを別々にアップデートします。

1. デバイスの電源を入れます。USB-C ケーブルで、デバイスをパソコンに接続します。
2. DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を起動し、DJI アカウントでログインします。
3. デバイスを選択し、画面左側にある**ファームウェア更新**をクリックします。
4. ファームウェアを選択します。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

5. ファームウェアがダウンロードされるのを待ちます。ファームウェア更新が自動的に開始されます。ファームウェア更新が完了するまで待ちます。

⚠
- バッテリーファームウェアは、DJI Neo のファームウェアに含まれています。必ずすべてのバッテリーを更新してください。
- 必ず記載されている全ての手順に従って、ファームウェアを更新してください。手順に従わない場合には更新に失敗する場合があります。
- 更新中はパソコンがインターネットに接続されていることを必ず確認してください。
- 更新中は USB-C ケーブルの接続を外さないでください。
- 更新を実行する前に、デバイスのバッテリー残量が 20%以上であることを確認してください。
- ファームウェア更新には約 10 分かかります。更新処理中、ジンバルがゆっくりと動作し、ステータスインジケーターが点滅して、DJI Neo が再起動しますが、これは正常な動作です。更新が完了するまで、しばらくお待ちください。

ファームウェア更新情報については、以下のリンクにアクセスし、『リリースノート』を参照してください。

https://www.dji.com/neo/downloads

6.4 フライトレコーダー

フライトテレメトリ、機体のステータス情報、その他のパラメーターなどのフライトデータは、機体内蔵のデータレコーダーに自動的に保存されます。DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用して、データにアクセスできます。

6.5 アフターサービス情報

アフターサービスポリシー、修理サービス、サポートについては、https://www.dji.com/support をご確認ください。

© 2024 DJI All Rights Reserved.

お問い合わせはコチラ

連絡先
DJI サポート

本内容は予告なく変更される場合があります。
最新版は下記よりダウンロードしてください

https://www.dji.com/neo/downloads

本書についてご質問がある場合は、DJI（**DocSupport@dji.com** 宛にメッセージを送信）までお問い合わせください。

DJI と DJI NEO は、DJI の商標です。
Copyright © 2024 DJI All Rights Reserved.